

「田んぼの学校」実施報告書

2004年度

野川で遊ぶまちづくりの会

目次

1. 企画書
2. 実施計画・報告書
3. 会計報告
4. おたより
5. 参加者名簿
6. 参加者感想文集
7. 総括報告
8. 付録

1. 企画書

「田んぼの学校」

企画名：いのちの湧き水をみつめよう！！

野川で遊ぶまちづくりの会

都会の谷戸と湧き水の小川

東京の区部に隣接する調布市には多摩川の支流である野川が流れています。野川は府中崖線の湧き水を集めて流れる都会では貴重な清流です。その野川に府中崖線の谷戸から湧き出る水を源流とする小川（一部コンクリートによる用水路）があり、昔から、谷戸から野川までの川沿いに田んぼがありました。今でも田んぼを続ける農家があり、谷戸には雑木林があり、ホタルも飛ぶ都会では信じられないような環境が残っています。しかしながら、田んぼも減りつつあり、雑木林も手入れがされず、このままでは、この貴重な環境がなくなってしまう。

田んぼで遊び、学ぼう

私たちの会では、会の名前にあるとおり、野川で遊びながら、野川を子供達が遊べる（泳げる）川にするために、まちづくりの提言をしていこうという趣旨で活動（1991年2月発足、ホームページ：<http://www.asahi-net.or.jp/~kp5y-otj/>）しています。

野川の支流である小川（通称佐須用水）の清掃と生き物観察会をしているとき、会員の一人が田んぼをやらないかとおつづやいた一言がこの地で田んぼをやるきっかけになりました。何事も実践（遊ぶこと）からという私たちの活動にはぴったりの課題でした。野川のいのちはこの湧き水です。この湧き水がまた多くのいのちを育てているということ、体感できる田んぼはまさしく「田んぼの学校」でした。幸い、近くの農家に友人がおり、援農という形で、田んぼを始めることができました。それから10年、会員を中心に田んぼをやってきて、自分達だけでなんとかできるという自信がつくところまで来ました。また、一昨年、昨年と本件と同様の企画を実施し、企画の必要性を再確認し、継続することにしました。本年も、この地域を保全するため、またよりよくするため、市民の方々に広く知っていただくために親子（子供は小中学生）参加者を公募し、広く市民に理解していただくことを企画しました。具体的な内容は日程表をご参照下さい。

2. 実施計画・報告書

2004年日程表 (案)

No	プログラム名称	日付	開始時刻	終了時刻	作業・行事	課題	目的	内容	要領
1	田んぼの学校	1月12日(月)	9時	11時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。
2	田んぼの学校	1月12日(月)	11時	13時	佐須地区どんど焼き	どんど焼きてなに?	地域に根づいている行事に関心を持ち、生活との関わりを学ぶ。	佐須地区どんど焼きにて餅つきを手伝う	
3	田んぼの学校	2月8日(日)	10時	12時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。
4		2月13日(金)			「田んぼの学校」募集原稿締め切り			参加者募集原稿を用意する。田んぼの参加者は今年初めて市報で募集をするが、環境保全課と連携を取ってやりたいと考えている。	
5	田んぼの学校	3月7日(日)	10時	12時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。
6		3月20日(土)			「田んぼの学校」募集市報掲載				
7	田んぼの学校	4月4日(日)	9時	11時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。
8	田んぼの学校	4月4日(日)	14時	18時	◎「田んぼの学校」開校式 ◎第一部 説明会◎第二部 懇親会(花見)		当会の活動を理解してもらう。また、今後の心構えなどを話し合う。	参加者顔合わせ(自己紹介)、年間予定説明、名簿作成、質疑応答、参加確定者から会費5000円を徴収する。また、1家族に一握りつつ種籾を分け、自宅で水に浸けてもらう。花見は会費を徴収する。	●開会の挨拶●環境部の挨拶●説明会(当会の概要、年間日程、援農)●質疑応答●参加確認(多数の場合、抽選)●参加費徴収●種籾配布●閉会の挨拶●花見会場(野川武蔵野市場いこいの水辺)へ移動●花見
9	田んぼの学校	4月19日(月)			種籾準備(水に浸ける)	種って何?どうして芽が出るの?	種の働きを理解する。	種籾を選別し、発芽させる。	●最初に薄い食塩水(新鮮な卵が浮く程度)に種籾をつけて、浮いた種籾を選び分ける(苗床の余ったところで蒔いてみるのもいい)。●一度洗って、きれいな水に浸ける。酸素を必要とするので1日に一回は水を取りかえる。 ●発芽したら、冷蔵保存(5から10℃)する。●種蒔の前日に発芽していない場合、風呂の残り湯(30℃以下)に
10	田んぼの学校	4月24日(土)	10時	12時	◎苗床作り◎堆肥切り返し ◎畦草刈り			●苗を育てるための苗床を作る。●堆肥置き場の囲いを移動し、堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。●畦の草刈りをする。	●田んぼの南側に幅1.2m、長さ12mくらいの広さの短冊状をつくる。土の塊は種籾より小さくなるように、大きなものを手ですりつぶす。●高さは他と同じにする。高くすると、乾燥しやすくなるため。●畝の両脇は7cmくらいの深さで水路を作り水を入れる。
11	田んぼの学校	4月25日(日)	10時	12時	◎苗床作り◎種まき	種籾の不思議にせまる	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。	●苗を育てるための苗床を作る。●種籾を蒔く。	●もち米と粳米の種籾を4、6の割合で、区別(もち米に粳米が混ざるともちにならない)して蒔く。●種籾は重ならない程度に密に蒔く。●薄く(5mmほど)土をかける。●かまぼこ状にネットをかける。
12	田んぼの学校	4月25日(日)	13時	15時	◎用水路清掃◎生き物観察	用水路には何がいます?	地域と用水路(佐須用水)の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。	●佐須街道から野川までの佐須用水(本流)のゴミ拾いをする●同じところで、水棲動物を捕獲して観察会を行う	●用水路に入り、ゴミ拾いをする。●ゴミは分別する。●空缶の中にはザリガニがいるので、捕獲する。●ゴミはリヤカーで集め、児童館裏に置かせてもらう。
13	田んぼの学校	5月9日(日)	10時	12時	レンゲ刈り取り	なぜ、田んぼにレンゲなの?	田んぼにレンゲが植えられる意味を考える。	草刈り鎌でレンゲを刈り取る。	●草刈り鎌でレンゲを根元から刈り取る。●刈ったレンゲはその場に放置し、乾燥させる。●レンゲを根ごと掘り出し、根粒菌を確認する。
14	田んぼの学校	5月23日(日)	10時	12時	◎堆肥入れ◎荒起こし◎畦草刈り◎くろつけ準備	堆肥の養分は何?田んぼの荒起こしをしているとなぜか鳥がやってくる?	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、糞などで堆肥を作る有機農法は昔から普通に農家で行われたことを理解する。化学肥料との違いは何かを考える。	●堆肥を田んぼに均等に撒く●撒いた堆肥を耕運機で漑き込む●畦の草刈りをする。●刈った草は田んぼに撒く。●畦の際に水路を作り、水を引	●水路に堰を作り、田んぼに水を引き入れる●畦の際に水路を作る●畦に泥を塗り付ける分を畦から削る
15	田んぼの学校	6月6日(日)	10時	12時	くろつけ	くろつけは何のため?	くろつけは水漏れを防ぐ知恵である。今ではコンクリートなどで整備された田んぼがあるが、なにもなければ知恵が働くと言うことを学ぶ。	●畦に泥を塗りつける。●	●取水口から一番遠いところからくろつけをする●水加減をしながら泥をこねて、畦の上部と壁面に5cmくらいの厚さで泥を塗る●くろつけが終わったら畦際の水路に水を引きいれ、くろが乾かないようにする
16	田んぼの学校	6月10日(木)	18時	20時	ホタル鑑賞会	ホタルはどこに棲む?	ホタルの生育できる環境を理解する。		
17	田んぼの学校	6月12日(土)	10時	15時	◎苗取り◎しろかき	しろかきは何のため?	くろつけが入れ物の縁とすると、しろかきは入れ物の底からの水漏れを防ぐ知恵である。昔から田んぼにしてきたところは底が粘土状になっている。	●苗代から苗を取り、わらで適当な量を束ねる。●取った苗は水に浸けておく。●田んぼに水を十分に入れ、耕運機で代掻きをする。●表面を水	●結束用のわらは、あらかじめ水にぬらしておく●結わえた苗の束は籠に入れて水に浸けておく●もち米と粳米の苗を絶対に混ぜない。●代掻きが終わる頃、水を止めると高低がわかる

野川で遊ぶまちづくりの会

作成日2016/4/1718:32

プログラム名称	日付	開始時刻	終了時刻	作業・行事	準備	用具	服装・装備	担当者	備考
田んぼの学校	1月12日(月)	9時	11時	堆肥切り返し		くい打ち用木製ハンマー、フォーク、バケツ	作業着、軍手、長靴		
田んぼの学校	1月12日(月)	11時	13時	佐須地区どんど焼き	例年11時からつきたての餅を配り始める。青年会など関係者は9時頃から準備をしている。				
田んぼの学校	2月8日(日)	10時	12時	堆肥切り返し					
	2月13日(金)			「田んぼの学校」募集原稿締め切り	環境保全課と連絡を取る。			市報原稿締め切り	
田んぼの学校	3月7日(日)	10時	12時	堆肥切り返し					
	3月20日(土)			「田んぼの学校」募集市報掲載				市報で参加者募集	
田んぼの学校	4月4日(日)	9時	11時	堆肥切り返し					自由参加
田んぼの学校	4月4日(日)	14時	18時	◎「田んぼの学校」開校式◎第一部 説明会◎第二部 懇親会(花見)	●調布ヶ丘地域センターの比較的大きな部屋を環境部にとってもらう。●資料(野川散歩地図、会報)●花見(焼き鳥、焼き肉、野菜焼き、湯き物、生ビール、焼酎ほか)	●花見(バーベキューセット×2、焼鳥台、ブルーシート)			
田んぼの学校	4月19日(月)			種籾準備(水に浸ける)	●参加者に一握りずつ分けるもち米の種籾を用意する●				
田んぼの学校	4月24日(土)	10時	12時	◎苗床作り◎堆肥切り返し◎畦草刈り	●農協で100mのネットを購入する。●湿った土では土が固まりやすいので、乾燥した時でない苗床づくりはできない。天候によっては日程を変更する。●ただし、代掻きした苗床に種を蒔く方法もある。(直				自由参加
田んぼの学校	4月25日(日)	10時	12時	◎苗床作り◎種まき		ネット、ネットフレーム(20本)、ふるい			
田んぼの学校	4月25日(日)	13時	15時	◎用水路清掃◎生き物観察	●クリーンセンター、佐須児童館に連絡をする。		●ゴミ袋、リヤカー、軍手●水槽、水棲動物用捕獲網	講師:平井氏(043-383-3468、03-3666-3327)	
田んぼの学校	5月9日(日)	10時	12時	レンゲ刈り取り		草刈り鎌10本。			
田んぼの学校	5月23日(日)	10時	12時	◎堆肥入れ◎荒起こし◎畦草刈り◎くろつけ準備					自由参加、運動会のため繰り上げ
田んぼの学校	6月6日(日)	10時	12時	くろつけ					運動会のため繰り上げ
田んぼの学校	6月10日(木)	18時	20時	ホテル鑑賞会					
田んぼの学校	6月12日(土)	10時	15時	◎苗取り◎しろかき	●結束用のわら●籠を用意する				

野川で遊ぶまちづくりの会

作成日2016/4/1718:32

プログラム名称	日付	開始時刻	終了時刻	作業・行事	準備	用具	服装・装備	担当者	備考
田んぼの学校	6月13日(日)	10時	13時	田植え					
	6月20日(日)			補植					
田んぼの学校	7月11日(日)	10時	12時	◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り◎田んぼの生き物観察				講師:平井氏(042-383-3468、03-3666-3327)	
	8月26日(木)	9時	12時	夏祭り準備	●焼き鳥台(60cm)準備(今年度1台購入、1台高津装飾で借りる、1台は自前)●中なべ(60cm)2個(児童館)●プロパンコンロ大2台(菊屋燃料)●練炭10Kg2箱●ビニールバック、ビニール袋、輪ゴム、アルミホイール●食材(串焼き鳥1日2000本、焼き鳥用タレ)●保温用発泡			柏野夏祭り準備	
田んぼの学校	8月27日(金)	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					自由参加
田んぼの学校	8月28日(土)	14時	15時	◎畦草刈り◎田んぼの生き物観察					
田んぼの学校	8月28日(土)	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					自由参加
	8月29日(日)	9時	12時	夏祭り片付け				柏野夏祭り(片づけ)	
田んぼの学校	9月5日(日)	10時	11時	田んぼ生き物観察					
田んぼの学校	9月5日(日)	11時	13時	カカン作り					
田んぼの学校	9月18日(土)	10時		親子炭焼きキャンプ(1日目)					
田んぼの学校	9月19日(日)		12時	親子炭焼きキャンプ(2日目)					
田んぼの学校	10月2日(土)	10時	12時	◎ハザ掛け準備◎稲刈り	●足になる垂木、3本1組、6組分 ●梁にする竹(10m)10本くらい ●網掛け用竹棒(3m)15本くらい ●鳥除け網40mくらい ●荒縄(太)1巻 ●結束用稲わら				
田んぼの学校	10月3日(日)	10時	12時	◎稲刈り◎レンゲ種まき					
田んぼの学校	10月24日(日)	10時	12時	脱穀	佐須地区の共同脱穀機(自走式)を借り、田んぼへ移動する。				
田んぼの学校	11月7日(日)	10時	16時	籾摺り	●籾摺り機●モーター●みの●米袋10枚				
田んぼの学校	11月14日(日)	10時	14時	精米	●佐須地区の共同精米所にて行う。●カギは当番のところまで借りる。●精米費は30Kg200円?を会計担当に支払う。(領収書無しです。) ●カギと、会計の担当は竹内さんに確認する。●みの				
田んぼの学校	11月23日(火)	10時	15時	収穫祭(餅つき、豚汁)	2000年に臼と杵は知人より入手した。かまどと、せいろは八雲台幼稚園の小林さんか佐須児童館で借り				
田んぼの学校	12月5日(日)	10時	12時	落ち葉拾い(堆肥作り)	米糠(自前の米糠が約20Kg、他に山田屋お米館で有機栽培米糠3袋(15Kg×3)を購入する。また、農協(神代支店)で鶏糞2袋(10Kg×2)を購入する。				
田んぼの学校	12月5日(日)	12時	15時	「田んぼの学校」卒業式(反省会)	●場所を確保(神代農場)する●11時頃から一部の人で準備する。				

「野川で遊ぶまちづくりの会」
「田んぼの学校」2004年日程表

日付	開始時刻	終了時刻	作業・行事	課題	目的	備考
4月4日(日)	9時	11時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	自由参加
4月4日(日)	14時	18時	◎「田んぼの学校」開校式◎第一部説明会◎第二部 懇親会(花見)		当会の活動を理解してもらう。また、今後の心構えなどを話し合う。	
4月19日(月)			種籾準備(水に浸ける)	種って何? どうして芽が出る	種の働きを理解する。	
4月24日(土)	10時	12時	◎苗床作り◎堆肥切り返し◎畦草刈り			自由参加
4月25日(日)	10時	12時	◎苗床作り◎種まき	種籾の不思議にせまる	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。	
4月25日(日)	13時	15時	◎用水路清掃◎生き物観察	用水路には何がいます?	地域と用水路(佐須用水)の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。	
5月9日(日)	10時	12時	レンゲ刈り取り	なぜ、田んぼにレンゲなの?	田んぼにレンゲが植えられる意味を考える。	
5月23日(日)	10時	12時	◎堆肥入れ◎荒起こし◎畦草刈り◎	堆肥の養分は何?	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、藁などで堆肥を作る有機農	自由参加、運動会
6月6日(日)	10時	12時	くろつけ	くろつけは何のため?	くろつけは水漏れを防ぐ知恵である。今ではコンクリートなどで整備された田んぼがあるが、なにもなければ知恵が働くと言うことを学ぶ。	運動会のため繰り上げ
6月10日(木)	18時	20時	ホテル鑑賞会	ホテルはどこに棲む?	ホテルの生育できる環境を理解する。	
6月12日(土)	10時	15時	◎苗取り◎しろかき	しろかきは何のため?	くろつけが入れ物の縁とすると、しろかきは入れ物の底からの水漏れを防ぐ知恵である。昔から田んぼにしてきたところは底が粘土状になっている。	
6月13日(日)	10時	13時	田植え	丈夫に育て!	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。	
6月20日(日)			補植			
7月11日(日)	10時	12時	◎一番草(草取り、根掻き)◎畦草刈り◎田んぼの生き物観察	田んぼに何がいます?	オタマジャクシ、ミジンコなど生き物でいっぱいになる田んぼでなにが起こっているか考える。	
8月26日(木)	9時	12時	夏祭り準備			
8月27日(金)	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)		地域の祭りに参加し、交流を図る。	自由参加
8月28日(土)	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)		地域の祭りに参加し、交流を図る。	自由参加
8月29日(日)	9時	12時	夏祭り片付け			
9月5日(日)	10時	11時	田んぼ生き物観察	田んぼに何がいます?		
9月5日(日)	11時	13時	カカン作り	カカンって何してるの?	稲の穂に付いた籾をねらって鳥が来る。人も鳥も生きていることを考える。	
9月18日(土)	10時		親子炭焼きキャンプ(1日目)		炭焼きの実践を体験し、雑木林の役割を考える。	
9月19日(日)		12時	親子炭焼きキャンプ(2日目)			
10月2日(土)	10時	12時	◎ハザ掛け準備◎稲刈り			
10月3日(日)	10時	12時	◎稲刈り◎種まき	刈った稲を干すのはなぜ?	稲を干すのはなぜなのか考える。	
10月24日(日)	10時	12時	脱穀			
11月7日(日)	10時	16時	籾摺り			
11月14日(日)	10時	14時	精米	玄米、胚芽米、精米の違いは何?	一粒の米に託されたものを考える。	
11月23日(火)	10時	15時	収穫祭(餅つき、豚汁)	お米を作ったのは誰?	お米作りを通して、人と自然の役割を考える。	
12月5日(日)	10時	12時	落ち葉拾い(堆肥作り)	雑木林って何?	雑木林の役割を考える。	
12月5日(日)	12時	15時	「田んぼの学校」卒業式(反省会)	米つくりを終えて	この9ヶ月で考えたこと、学んだことを確認する。	

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	1月12日(月)	開始時刻	9時	終了時刻	11時
実施日	1月12日	開始時刻	9時	終了時刻	10時
作業:	堆肥切り返し				
課題:					
目的:	堆肥発酵促進				
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。				
要領:	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。				
準備:					
用具:	くい打ち用木製ハンマー、フォーク、バケツ				
服装・装備:	作業着、軍手、長靴				
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:尾辻、近藤、中原				
	参加者名:				
	開始時刻	9:00	終了時刻	10:00	
	実施内容:				
	場所の移動を行い、堆肥を天地返しして水分を補給した。				

備考:					

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	1月12日(月)	開始時刻	11時	終了時刻	13時
実施日	1月12日	開始時刻	10時	終了時刻	13時
作業:	佐須地区どんど焼き				
課題:	どんど焼きってなに?				
目的:	地域に根づいている行事に関心を持ち、生活との関わりを学ぶ。				
内容:	佐須地区どんど焼きにて餅つきを手伝う				
要領:					
準備:	例年11時からつきたての餅を配り始める。青年会など関係者は9時頃から準備をしている。				
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:尾辻、近藤、中原				
	参加者名:				
	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00	
	実施内容:				
	餅つきの手伝いをする。				

留意事項:					

備考:					

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	2月8日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	2月3日	開始時刻	10時	終了時刻	11時
作業:	堆肥切り返し				
課題:					
目的:	堆肥発酵促進				
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。				
要領:	<ul style="list-style-type: none"> ●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。 				
準備:					
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:尾辻、近藤、中原				
	参加者名:				
	開始時刻	10:00	終了時刻	11:00	
	実施内容:				
	場所の移動を行い、堆肥を天地返しをした。				
	----- ----- ----- ----- ----- ----- -----				
備考:	留意事項:				
	----- ----- ----- -----				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	3月7日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	3月9日	開始時刻	9時	終了時刻	10時
作業:	堆肥切り返し				
課題:					
目的:	堆肥発酵促進				
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。				
要領:	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。				
準備:					
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:尾辻、近藤、中原				
	参加者名:				
	開始時刻	9:00	終了時刻	10:00	
	実施内容:				
	場所の移動を行い、堆肥を天地返しをした。				

留意事項:	-----				

備考:					

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	4月4日(日)	開始時刻	9時	終了時刻	11時
実施日	4月7日	開始時刻	13時	終了時刻	14時
作業:	堆肥切り返し				
課題:					
目的:	堆肥発酵促進				
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。				
要領:	<p>●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。</p>				
準備:					
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:尾辻、近藤、中原				
	参加者名:				
	開始時刻	13:00	終了時刻	14:00	
	実施内容:				
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----				
備考:	留意事項:				
	----- ----- -----				
	自由参加				

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	4月4日(日)	開始時刻	14時	終了時刻	18時
実施日		開始時刻		終了時刻	
作業:	◎「田んぼの学校」開校式◎第一部 説明会◎第二部 懇親会(花見)				
課題:					
目的:	当会の活動を理解してもらう。また、今後の心構えなどを話し合う。				
内容:	参加者顔合わせ(自己紹介)、年間予定説明、名簿作成、質疑応答、参加確定者から会費5000円を徴収する。また、1家族に一握りづつ種粃を分け、自宅で水に浸けてもらう。花見は会費を徴収する。				
要領:	●開会の挨拶●環境部の挨拶●説明会(当会の概要、年間日程、援農)●質疑応答●参加確認(多数の場合、抽選)●参加費徴収●種粃配布●閉会の挨拶●花見会場(野川武蔵野市場いこいの水辺)へ移動●花見				
準備:	●調布ヶ丘地域センターの比較的大きな部屋を環境部にとってもらう。●資料(野川散歩地図、会報)●花見(焼き鳥、焼き肉、野菜焼き、湯き物、生ビール、焼酎ほか)				
用具:	●花見(バーベキューセット×2、焼鳥台、ブルーシート)				
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:尾辻、近藤、中原				
	参加者名:今年度申込者ほとんどが参加				
	開始時刻	14:00	終了時刻	17:00	
	実施内容:				
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----				
備考:	留意事項:				
	----- ----- -----				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	4月19日(月)	開始時刻		終了時刻	
実施日		開始時刻		終了時刻	
作業:	種籾準備(水に浸ける)				
課題:	種って何? どうして芽が出るの?				
目的:	種の働きを理解する。				
内容:	種籾を選別し、発芽させる。				
要領:	<ul style="list-style-type: none"> ●最初に薄い食塩水(新鮮な卵が浮く程度)に種籾をつけて、浮いた種籾を選り分ける(苗床の余ったところで蒔いてみるのもいい)。 ●一度洗って、きれいな水に浸ける。酸素を必要とするので1日に一回は水を取りかえる。 ●発芽したら、冷蔵保存(5から10℃)する。 ●種蒔の前日に発芽していない場合、風呂の残り湯(30℃以下)につけ 				
準備:	●参加者に一握りずつ分けるもち米の種籾を用意する●				
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				
	各百百宅で行う。				

備考:	留意事項:				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	4月24日(土)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	4月27日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	◎苗床作り◎堆肥切り返し◎畦草刈り				
課題:					
目的:					
内容:	●苗を育てるための苗床を作る。●堆肥置き場の囲いを移動し、堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。●畦の草刈りをする。				
要領:	●田んぼの南側に幅1.2m、長さ12mくらいの広さの短冊畝つくる。土の塊は種籾より小さくなるように、大きなものを手ですりつぶす。●高さは他と同じにする。高くすると、乾燥しやすくなるため。●畝の両脇は7cmくらいの深さで水路を作り水を入れる。				
準備:	●農協で100mのネットを購入する。●湿った土では土が固まりやすいので、乾燥した時でないとは苗床づくりはできない。天候によっては日程を変更する。●ただし、代掻きした苗床に種を蒔く方法もある。(直播きに近い)				
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻	10時	終了時刻	12時	
	実施内容:				
	田んぼの南東のレンゲを刈り取り、苗床を作る。				
	堆肥の天地返しを行う。				

	留意事項:				

備考:	自由参加				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	4月25日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	4月28日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	◎苗床作り◎種まき				
課題:	種籾の不思議にせまる				
目的:	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。				
内容:	●苗を育てるための苗床を作る。●種籾を蒔く。				
要領:	●もち米と粳米の種籾を4, 6の割合で、区別(もち米に粳米が混ざるともちにならない)して蒔く。●種籾は重ならない程度に密に蒔く。●薄く(5mmほど)土をかける。●かまぼこ状にネットをかける。				
準備:					
用具:	ネット、ネットフレーム(20本)、ふるい				
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻	10時	終了時刻	12時	
	実施内容:				
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----				
備考:	留意事項:				
	----- ----- -----				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:	田んぼの学校				
実施予定日	4月25日(日)	開始時刻	13時	終了時刻	15時
実施日	4月28日	開始時刻	13時	終了時刻	16時
作業:	◎用水路清掃◎生き物観察				
課題:	用水路には何がいますか？				
目的:	地域と用水路(佐須用水)の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。				
内容:	●佐須街道から野川までの佐須用水(本流)のゴミ拾いをする●同じところで、水棲動物を捕獲して観察会を行う。				
要領:	●用水路に入り、ゴミ拾いをする。●ゴミは分別する。●空缶の中にはザリガニがいるので、捕獲する。●ゴミはリヤカーで集め、児童館裏に置かせてもらう。				
準備:	●クリーンセンター、佐須児童館に連絡をする。				
用具:	●ゴミ袋、リヤカー、軍手●水槽、水棲動物用捕獲網				
服装・装備:					
担当者:	講師:平井氏(043-383-3468、03-3666-3327)				
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻	13時	終了時刻	16時	
	実施内容:				
	----- ----- ----- ----- ----- ----- -----				
備考:	留意事項:				
	----- ----- -----				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	5月9日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	5月12日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	レンゲ刈り取り				
課題:	なぜ、田んぼにレンゲなの？				
目的:	田んぼにレンゲが植えられる意味を考える。				
内容:	草刈り鎌でレンゲを刈り取る。				
要領:	●草刈り鎌でレンゲを根元から刈り取る。●刈ったレンゲはその場に放置し、乾燥させる。●レンゲを根ごと掘り出し、根粒菌を確認する。				
準備:					
用具:	草刈り鎌10本。				
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:尾辻、近藤				
	参加者名:				
	開始時刻	10時	終了時刻	12時	
	実施内容:				
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----				
備考:	留意事項:				
	----- ----- -----				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	6月6日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	5月26日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	13時
作業:	くろつけ				
課題:	くろつけは何のため?				
目的:	くろつけは水漏れを防ぐ知恵である。今ではコンクリートなどで整備された田んぼがあるが、なにもなければ知恵が働くということを学ぶ。				
内容:	●畦に泥を塗りつける。●				
要領:	●取水口から一番遠いところからくろつけをする●水加減をしながら泥をこねて、畦の上部と壁面に5cmくらいの厚さで泥を塗る●くろつけが終わったら畦際の水路に水を引き入れ、くろが乾かないようにする				
準備:					
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名: 森田、太田、中原、東狐、忍足、多田、玉山、渡井、一條、張、中野、高橋、今田、四方田、近藤、尾辻				
	開始時刻	10時		終了時刻	13時
	実施内容:				
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----				
備考:	留意事項:				
	----- ----- -----				

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	6月10日(木)	開始時刻	18時	終了時刻	20時
実施日	6月2日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	ホテル鑑賞会				
課題:	ホテルはどこに棲む？				
目的:	ホテルの生育できる環境を理解する。				
内容:					
要領:					
準備:					
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻	10時	終了時刻	12時	
	実施内容:				
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----				
備考:	留意事項:				
	----- ----- -----				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	6月12日(土)	開始時刻	10時	終了時刻	15時
実施日	6月8日(土)	開始時刻	19時	終了時刻	21時
作業:	◎苗取り◎しろかき				
課題:	しろかきは何のため?				
目的:	くろつけが入れ物の縁とすると、しろかきは入れ物の底からの水漏れを防ぐ知恵である。昔から田んぼにしてきたところは底が粘土状になっている。				
内容:	●苗代から苗を取り、わらで適当な量を束ねる。●取った苗は水に浸けておく。●田んぼに水を十分に入れ、耕運機で代掻きをする。●表面を水平にならす。				
要領:	●結束用のわらは、あらかじめ水にぬらしておく●結わえた苗の束は籠に入れて水に浸けておく●もち米と粳米の苗を絶対に混ぜない。●代掻きが終わる頃、水を止めると高低がわかる				
準備:	●結束用のわら●籠を用意する				
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:尾辻、小池先生				
	参加者名:				
	開始時刻	19時		終了時刻	21時
	実施内容:				

留意事項:	-----				

備考:					

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	6月13日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	13時
実施日	6月15日(土)	開始時刻	13時	終了時刻	18時
作業:	田植え				
課題:	丈夫に育て!				
目的:	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。				
内容:	●田植えをする ●南側にもち米を田んぼの四割くらい植える				
要領:	●30cm間隔に印のついた縄(25m)を張り、印のついたところに植える。●縄は25cm間隔でずらしていく。●苗を植える人は、植え終わったら一步下がって自分の足跡をならす。●水は少な目に張る。				
準備:					
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:尾辻、近藤、中原				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				

留意事項:	-----				

備考:					

プログラムマニュアル					
プログラム名称:					
実施予定日	6月20日(日)	開始時刻		終了時刻	
実施日	6月16日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	13時
作業:	補植				
課題:					
目的:					
内容:					
要領:					
準備:					
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:尾辻、近藤、中原				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				

留意事項:	-----				

備考:					

プログラムマニュアル					
プログラム名称:					
実施予定日	8月26日(木)	開始時刻	9時	終了時刻	12時
実施日	7月7日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	夏祭り準備				
課題:					
目的:					
内容:	●テント張り●ちょうちん付け●やぐら紅白テープ巻き●掲示板設置●当会は焼き鳥の模擬店として参加する。				
要領:					
準備:	●焼き鳥台(60cm)準備(今年度1台購入、1台高津装飾で借りる、1台は自前)●中なべ(60cm)2個(児童館)●プロパンコンロ大2台(菊屋燃料)●練炭10Kg2箱●ビニールパック、ビニール袋、輪ゴム、アルミホイール●食材(串焼き鳥1日2000本、焼き鳥用タレ)●保温用発泡スチロールケース				
用具:					
服装・装備:					
担当者:	柏野夏祭り準備				
実施記録:	指導担当者名:尾辻、近藤、中原				
	参加者名:				
	開始時刻			終了時刻	
	実施内容:				
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----				
留意事項:					
----- ----- ----- -----					
備考:					

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	8月28日(土)	開始時刻	15時	終了時刻	21時
実施日		開始時刻	15時	終了時刻	21時30分
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)				
課題:					
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。				
内容:	●2000本の焼き鳥を焼いて、1本60円で販売する。				
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封してなべでポイルする。●発泡スチロールの箱で保存する。●タレは焼いた後1回だけ付ける●				
準備:					
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:尾辻、近藤、中原				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----				
留意事項:					
----- ----- ----- -----					
備考:	自由参加				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:					
実施予定日	8月29日(日)	開始時刻	9時	終了時刻	12時
実施日	8月24日	開始時刻	10時	終了時刻	14時
作業:	夏祭り片付け				
課題:					
目的:					
内容:					
要領:					
準備:					
用具:					
服装・装備:					
担当者:	柏野夏祭り(片づけ)				
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				

備考:	留意事項:				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	9月5日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	11時
実施日	8月24日	開始時刻	15時	終了時刻	21時
作業:	田んぼ生き物観察				
課題:	田んぼに何がいます?				
目的:					
内容:					
要領:					
準備:					
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				

留意事項:	-----				

備考:					

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	9月18日(土)	開始時刻	10時	終了時刻	
実施日	9月15日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	親子炭焼きキャンプ(1日目)				
課題:					
目的:	炭焼きの実践を体験し、雑木林の役割を考える。				
内容:					
要領:					
準備:					
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:尾辻、近藤、中原				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				

留意事項:	-----				

備考:					

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	10月3日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日		開始時刻		終了時刻	
作業:	◎稲刈り◎レンゲ種まき				
課題:	刈った稲を干すのはなぜ?				
目的:	稲を干すのはなぜなのか考える。				
内容:	鳥除けの網を張る。				
要領:					
準備:					
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				

備考:	留意事項:				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	10月24日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日		開始時刻		終了時刻	
作業:	脱穀				
課題:					
目的:					
内容:	●稲穂から種籾を取る●来年の種籾を確保する。				
要領:					
準備:	佐須地区の共同脱穀機(自走式)を借り、田んぼへ移動する。				
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				

備考:	留意事項:				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:	田んぼの学校				
実施予定日	11月7日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	16時
実施日	10月5日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	粃摺り				
課題:					
目的:					
内容:	●種粃から粃殻を取る				
要領:					
準備:	●粃摺り機 ●モーター ●みの ●米袋10枚				
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				

備考:	留意事項:				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	11月14日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	14時
実施日	10月6日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	精米				
課題:	玄米、胚芽米、精米の違いは何？				
目的:	一粒の米に託されたものを考える。				
内容:	●佐須地区共同小屋で精米する。●粳米は7分くらいにする。				
要領:	●				
準備:	●佐須地区の共同精米所にて行う。●カギは当番のところで借りる。●精米費は30Kg200円？を会計担当に支払う。(領収書無しです。)●カギと、会計の担当は竹内さんに確認する。●みの				
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				

備考:	留意事項:				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	11月14日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	14時
実施日	10月19日	開始時刻	13時	終了時刻	17時
作業:	精米				
課題:	玄米、胚芽米、精米の違いは何？				
目的:	一粒の米に託されたものを考える。				
内容:	●佐須地区共同小屋で精米する。●粳米は7分くらいにする。				
要領:	●				
準備:	●佐須地区の共同精米所にて行う。●カギは当番のところで借りる。●精米費は30Kg200円？を会計担当に支払う。(領収書無しです。)●カギと、会計の担当は竹内さんに確認する。●みの				
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				

留意事項:					

備考:					

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	11月23日(火)	開始時刻	10時	終了時刻	15時
実施日	11月4日	開始時刻	10時	終了時刻	13時
作業:	収穫祭(餅つき、豚汁)				
課題:	お米を作ったのは誰?				
目的:	お米作りを通して、人と自然の役割を考える。				
内容:					
要領:					
準備:	2000年に臼と杵は知人より入手した。かまどと、せいろは八雲台幼稚園の小林さんか佐須児童館で借りる。				
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				

備考:	留意事項:				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	12月5日(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	11月9日、10日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	落ち葉拾い(堆肥作り)				
課題:	雑木林って何?				
目的:	雑木林の役割を考える。				
内容:	カニ山で落ち葉を集め、田んぼにベニヤ板で囲った堆肥置き場に積む。その時、米糠と鶏糞を混ぜ、水を十分にかけて、シートをかぶせる。				
要領:					
準備:	米糠(自前の米糠が約20Kg、他に山田屋お米館で有機栽培米糠3袋(15Kg×3)を購入する。また、農協(神代支店)で鶏糞2袋(10Kg×2)を購入する。				
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				

備考:	留意事項:				

プログラムマニュアル					
プログラム名称:		田んぼの学校			
実施予定日	12月5日(日)	開始時刻	12時	終了時刻	15時
実施日	11月17日	開始時刻	10時	終了時刻	14時
作業:	「田んぼの学校」卒業式(反省会)				
課題:	米つくりを終えて				
目的:	この9ヶ月で考えたこと、学んだことを確認する。				
内容:	●軽食を取りながら行う。●●				
要領:					
準備:	●場所を確保(神代農場)する●11時頃から一部の人で準備する。				
用具:					
服装・装備:					
担当者:					
実施記録:	指導担当者名:				
	参加者名:				
	開始時刻		終了時刻		
	実施内容:				

留意事項:	-----				

備考:					

3. おたより



みなさん、お元気ですか。いよいよ「田んぼの学校」が始まりました。この「おたより」はこれから「田んぼの学校」とみなさんとのお互いの架け橋として創られます。内容は、「田んぼの学校」からのお知らせや、みなさんからのご意見などです。「田んぼの学校」についてわからないことがありましたら、お知らせください。私たち「田んぼの学校」のスタッフも4年目になりましたが、まだまだ不慣れですので、気がついたこと、いたらないことがありましたら教えてください。わからないことも質問してください。

体験をより充実させる為に

さて、「田んぼの学校」では、みなさんが田んぼでやったこと、見たこと、感じたことを記録することをお勧めします。ノートか野帳（野外観察用のフィールドノート）を用意し、思い思いに記録してください。できましたら、写真（撮りきりカメラで十分）も有るといいと思います。その日にあったこと、学んだことをお子さんと一緒に振り返ることで、体験がより充実したものになります。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月19日（月）の学習 内容「種粃（たねもみ）の準備」 場所「自宅」

昔から、お米の豊作を願わないものはいませんでした。その最初の仕事が種粃の選別です。中身の詰まった重い種粃が丈夫な稲に育つことを昔の人は経験的に知っていました。

ではどのようにして重い種粃と軽い種粃を区別したのでしょうか。昔の人は、泥水に種粃をつけて沈んだ種粃を使っていました。浮いた種粃は軽くて悪い種粃として選別していたのです。

今は、塩水を使います。薄い食塩水に種粃をつけると重くて良い種粃は沈み、軽くて栄養分の少ない種粃は浮きます。これを「塩水選」といいます。真水では沈む種粃も薄い食塩水では浮くのはなぜでしょうか。おとうさん、おかあさん、子供といっしょに考えましょう。

それでは、開校式でお渡しした（一部の方はおたよりに同封）種粃（もち米で銘柄はマンゲツモチ）で塩水選をやってみましょう。

1. 鍋やボールなど適当な入れ物を用意して下さい。
2. 真水(水道水でも可)200ccに塩16gを溶かして下さい。この食塩水の比重は約1.08です。もち米はこの食塩水で塩水選をします。
3. この食塩水に種粃をつけてください。種粃全体をこの塩水につけ、ここで、沈んだ種粃が良い種



粃です。浮いた種粃と沈んだ種粃を別にしてとりだし、それぞれ水で洗ってください。

(塩分がついたままでは発芽に悪い)

4. 次に、発芽を促すために種粃を新鮮な水に浸けておきます。選別した種粃の両方を同じように別々に水につけてみてください。15℃の水で、約1週間つけると発芽します。20℃なら5日くらいになります。水の温度が高いと早く発芽します。4月25日(日)が種まきの予定ですが、それより早く芽が出たら(芽と根が1mm位になったら)、水を切って当日まで冷蔵庫に入れておいてください。低温にすることで発芽の成長が一時的に止まります。くれぐれも芽や根を伸ばしすぎないようにしてください。

以上



みなさん、お元気ですか。もうこの「おたより」の2回目になりました。田んぼでは「レンゲ」がたくさん咲いています。時間を見つけてぜひ見に行ってください。いまみられる「レンゲ」は牛などのえさとして作られるものなので、葉っぱが大きくなるようです。昔から田んぼで見ることができた「レンゲ」はもっと背の低いものでした。

いよいよ、田んぼでのしごとがはじまります。今回は自由参加ですができるだけ参加して下さい。田んぼでは、たくさんの生き物たちがみなさんをむかえてくれます。いろいろな草花、虫、鳥などです。どんな生き物に出会えるか楽しみですね。となりの畑では今年も大きなコイが空を泳いでいるかな？

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月24日（土）の学習（自由参加）

内容： 苗床作り、畦草刈り、堆肥切り返し

場所： 田んぼ

持ち物その他： 作業着、軍手、タオル、昼食（田んぼでお昼を食べたい方）

苗床作り

苗床（なえとこ）は種籾をまいて稲の苗を育てるところです。発芽した種籾はここで丈夫な苗として育ちます。

1. 田んぼの南側寄りに2. 2m幅、6m長の広さで苗床用の場所を東西方向に2本確保し、レンゲを刈り取ります。
2. 耕運機でできるだけ細かく耕します。
3. 中央に1. 2m幅の短冊状の畝（うね）を作ります。高さは周囲と同じ高さにします。
4. 両脇に10cmくらいの深さで水路をつけ、用水の引き込み口から水路をつなげて水を引き込めるようにします。
5. 畝は草の根やごみを取り除き、大きな土の固まりはふるいで選り分けて手ですりつぶします。



畦草刈り

農家の人にとって雑草（正確にはいろいろな野草というべき）は天敵と考えられています。雑草は、作物の栄養分を取ってしまったり、成長を妨げたりするからです。雑草取りは農家の人に

とっては大変な重労働なので、除草剤などが使われたりしますが、有機農法では除草剤は使いません。最近では、雑草を味方にする研究なども行われています。いずれにしても、まわりの畑に雑草の種が撒き散らされることも有るので、雑草をそのままにすることはできません。

1. 小さい草刈りガマで畦（あぜ）の草刈りをします。
2. 刈り取った草は適当な場所に積み上げておきます。後日、荒起こしのときに田んぼに漉き込みます。このように刈り取った草は緑肥と呼ばれ、立派な有機肥料です。漉き込まれた草は土の中で腐敗して肥料になるからです。

堆肥切り返し

有機農法では、作物の肥料となる堆肥（たいひ）をかかすことはできません。堆肥の作り方もいろいろありますが、当会では、完熟しない状態で堆肥を田んぼに漉き込む方法で行っています。

1. 堆肥（たいひ）置き場の堆肥を積み替えます。
2. 乾燥しているようであれば、水をかけます。
3. 積み替えが終わったら、シートをかけておきます。

のがわDEさんぽ

<野川のおいたち>大昔、多摩川は武蔵野段丘（調布市内の深大寺地区）を流れていて、その大地を削り取りました。（浸食という）その結果できたのが国分寺崖線（崖が線状に連なっている）で、立川段丘と呼ばれる大地（現在、調布駅、甲州街道があるところ）ができました。その後、多摩川は南に移動して立川段丘を浸食して府中崖線をつくりました。調布は比較的多くの緑が残っているといわれますが、その理由の一つが、国分寺崖線と府中崖線の2本の崖線にあります。崖線は他に比べて開発が困難なために残っているのです。一度、多摩川から深大寺地区にかけて散歩することをおすすめします。さて、野川ですが、武蔵野段丘に降った雨はその一部が地下にしみこみ（浸透）、国分寺崖線から湧き出てきたものが集まってできた川です。現在、普段の野川に流れている水は、その湧き水ですから、大変にきれいな川と言っていいでしょう。（つづく）



もうこの「おたより」の3回目になりました。種粃(たねもみ)の選別はうまくいきましたか。種粃の選別はわたしたち人間が水田による稲作栽培をはじめて、経験の中から見つけた技術の一つだと思われます。大昔の人が比重に付いて知る由もなく、おそらくは水田に種粃を直播きしていて気が付いたのではないのでしょうか。やがて、塩が安く手に入るようになって泥水よりは扱いやすい塩水選によるものに変わっていったと思われます。いまでも、環境への負荷が少ないという理由で泥水選をやっている有機栽培グループもあります。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月25日(日)の学習

- | | |
|---------|------------------------------------|
| 内容: | 苗床作り、種まき |
| 場所: | 田んぼ |
| 持ち物その他: | 作業着、軍手、昼食(午後の学習がありますのでできるだけお持ち下さい) |

苗床作り

苗床(なえとこ)は種粃をまいて稲の苗を育てるところです。発芽した種粃はここで丈夫な苗として育ちます。

1. 田んぼの南側寄りに2. 2m幅、6m長の広さで苗床用の場所を東西方向に2本確保し、レンゲを刈り取ります。
2. 耕運機でできるだけ細かく耕します。
3. 中央に1. 2m幅の短冊状の畝(うね)を作ります。高さは周囲と同じ高さにします。
4. 両脇に10cmくらいの深さで水路をつけ、用水の引き込み口から水路をつなげて水を引き込めるようにします。
5. 畝は草の根やごみを取り除き、種粃より大きな土の固まりはふるいにかけて選り分け、手ですりつぶします。

種まき

みなさんに準備していただいた種粃(もち米)と当会が準備した種粃を苗床に蒔きます。蒔き方はいろいろありますが、ちょうど良く蒔く(?)のがいちばん。

1. 苗床をもち米用(南側)、うるち米用(北側)にわけます。
2. 用意した種粃を厚すぎず、薄すぎず、ちょうど良く蒔きます。



3. 各自準備した種籾も、それぞれの場所で、一粒ずつ蒔きます。
4. 蒔いた種籾の上に薄く（3から5mmくらい）細かい土をかけます。（覆土・ふくど）
5. 板などを使ってある程度土を固めます。（鎮圧・ちんあつ）
6. 苗床全体にかまぼこ状にネット（寒冷紗・かんれいしゃ）をかけます。（防鳥）
7. 水路に水を引き込みます。水はかれない程度に苗床の周囲に回るようにします。

4月25日（日）（13:00～15:00）の学習

- | | |
|---------|--|
| 内容： | 用水路清掃、用水路の観察会 |
| 場所： | 田んぼの用水路 |
| 持ち物その他： | 作業着、軍手、履き物は長靴かサンダルなど水路にはいることができるものをお持ち下さい。捕獲網、小型の水槽（ザリガニを持ち帰る場合） |

用水路清掃

わたしたちの田んぼは佐須用水（通称）と呼ばれる用水を利用しています。この用水のみなもとはカニ山奥の谷間（東京都立農業高校神代農場）にあります。用水路はフェンスに囲まれて、基本的には子供たちが用水路で遊ぶことを禁じています。用水路と人とのつながりが薄れることで、用水路の大切さが理解されなくなり、ゴミが捨てられる要因になっています。わたしたちは、普段のお米はスーパーやお米屋さん、生協などで購入していますが、この用水で作るお米がそれに代わるとするならば、わたしたちはこの用水によって日々の糧を得ていることになり、まさにこの用水が私たちの「命を支える水」であるわけです。

1. 用水路の清掃範囲は、本流の佐須街道から野川合流部までと、分流です。
2. 用水路にはゴム長靴や胴長をはいた大人が入り、ゴミ（流れの障害にならない小枝や石などはそのままにする）を水路脇に取り上げます。
3. 水路脇にあげられたゴミをリヤカーで回収し、佐須児童館の物置横に分別をしておきます。（後日、クリーンセンターで回収）
4. ジュースなどの空き缶の中にはザリガニがいることがあります。缶切りでふたを開けて捕獲します。



用水路の観察会

用水路の湧き水はわたしたち人間だけではなく、いろいろな植物や動物（昆虫、魚など）のいのちもいっしょに育んでいます。観察会では、その様子を学習します。ふだん、なにげなく見ている用水路には別の世界があります。

そーっとのぞいてみてごらん。

1. サンドルに履き替えて、用水路に入り、捕獲網で水中の生き物を捕ります。
2. 何か生き物がいたら、できるだけさわらないで水槽に移しましょう。
3. 講師の平井先生に捕れた生き物について解説していただきます。



のがわDEさんぽ

<野川のおいたち>野川沿いを散歩していると、野川に面した部分にほとんど窓がない家が多いことに気がつきませんか。最近の新しい家では、野川に面したところにテラスを設けている家もありますが、多くはありません。これには理由があります。窓がない家は野川がどぶ川だったときに建てられたのです。昭和30年頃から調布市内にも都市化の影響が現れ、住宅が増え始めました。急激な都市化により、下水道の整備が追いつかないまま、住宅がどんどん増えたため、家庭雑排水はやむなく川に流されたのです。悪臭を放つ野川が見えるように設計される家があるはずがありません。逆に、野川に面した方を庭にして、家から庭越しに野川が見えるようになっている家は最近造られた家といってもいいでしょう。野川のきれいなせせらぎを見ていると時間が経つのを忘れてしまいます。今、散歩にいい季節です。ぜひ、野川を散歩してみてください。(つづく)



みなさん、お元気ですか。種まき、用水路の清掃、用水路の観察会も無事終わりました。あれから苗床は見に行きましたか。すでに不完全葉（第一葉）を見ることができます。（5月5日現在）時間がありましたら、できるだけ田んぼに足を運び、苗に「丈夫に育てよ」と声をかけてください。きっと、苗もこたえてくれると思います。苗は人間のようにしゃべることができませんが、よく見ていると、苗の気持ちが伝わってきます。元気がなかったり、おかしいなと思うことがあったらおしえてください。今年、私たちの田んぼで蒔いたうるち米の品種はキヌヒカリといます。もち米の品種はマンゲツモチ。

さて、用水路の観察会では、今年もたくさん（詳細は以下）の生き物に出会えましたが、出会えなかった生き物もいました。詳しいことは、次ページの観察会記録をご覧ください。

次回は休講

次回の予定（5月23日）は繰り上げ実施のため、休講します。

5月9日（日）10:00～12:00 の学習

内容「◎堆肥入れ◎畦草刈り◎荒起こし◎くろつけ準備」 場所「田んぼ」

堆肥入れ

昨年12月に落ち葉拾いをして約5ヶ月間発酵させてきた堆肥を田んぼに漉き込みます。堆肥としては十分に発酵していませんが、土の中で更に分解されて肥料となります。

1. 堆肥をリヤカーで2杯分田んぼに運んできます。
2. 堆肥を田んぼ一面にまんべんなく撒く。
3. 小枝などの硬いものは分解されにくいので取り除く。

畦草刈り

くろつけを行うために、畦の草を刈り取ります。

荒起こし

田んぼ全体を耕運機で荒く耕し、堆肥や刈り取ったレンゲを土に漉き込みます。

くろつけ準備

畦の整理（昨年くろつけで持った土を取り除いたり、崩れている部分を補修したりします）を行ない、畦にそって水路の水を引き込み、くろつけの準備をします。

観察会の記録(平井講師報告)

佐須用水路の水生昆虫の分布を本流と分流で比較しています。

動物門	種名	用水路本流	用水路支流
軟体動物	カワニナ		◎
環形動物	シマイシビル	○	△
節足動物	ミズムシ	◎	○
	ミナミヌマエビ	◎	△
	アメリカザリガニ	○	△
	コカゲロウ属		△
	フタスジモンカゲロウ	△	
	オニヤンマ (ヤゴ)		△
	オナシカワゲラ属	△	
	フタツメカワゲラ属	○	
	シマアメンボ	○	△
	ホソバトビケラ		△
	ユスリカ科	○	△
脊椎動物	ホトケドジョウ		△

◎：多くいる ○：容易にみつかる △：ごく少ない

水路によって生物がちがうのは、

- ・水路の通水のしかた(季節的な使い方)の違い、
- ・水の使われ方 (畑や田んぼをどのように通過したか)の違い・・・農薬との関係、
- ・掃除(泥や落ち葉の除去)の違い

などが考えられます。

本流、支流ともにきれいな水を好む生物がいるので、ホトケドジョウなどがいないことで本流の水質が特に悪いと言うことはできないと思います。

いちど水の流れを確認しておくと、何か発見できるかも知れません。

以上

「田んぼの学校」おたより

2003年5月25日 第5号

みなさん、お元気ですか。あと1ヶ月ほどで「田植え」です。苗も順調に育っています。ところで、みなさんは、「田植え」がずいぶん遅いのではないかと感じませんか？ 関東近県でも5月には終わっているところが多いと思いますがどうでしょう。どこかへ出かけたときは、観察してみてください。「どどこでは、田植えしているところだったよ」とか「あそこはもう終わっていたよ」という情報をおしえてください。

さて、調布では「田植え」はいつがいいのか？ いちばん大きな理由は天気（気候）でしょう。

たくさんのお米をとるには、りっぱな実になる必要があります。稲は、たくさん葉にたくさん太陽の光をあびて大きな実をたくさんつけることができます。たくさん葉があるときに、たくさん太陽の光をあびることができるようにするには、春の終わりころから、夏の初めころがいいということになります。「田植え」の方法が「手植え」か「機械植え」かによっても違ってきます。「二毛作（にもうさく）」（二期作なんてのも習いましたね。わかるかな？）との関係もあります。稲刈りが終わった後に、裏作として例えば麦などを栽培し、翌年刈り取った後、田植えするという具合です。

田んぼの野草

先日（5月10日）、「田んぼの学校」スタッフの中原さんが、私たちの田んぼの野草を調べてくれました。最後のページの表にあるように32種（ちなみに昨年の4月22日には24種）が確認されました。

自然を身近に感じるができる秘訣の一つはこれらの野草の名前を覚えることです。子供は友達を作る名人ですが、野草の名前を覚えるのも子供は名人です。野草図鑑（ぜひ購入することをお勧めします）でこれらの野草を確認して、田んぼで名前を当ててみましょう。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



種をつけたレンゲ

5月25日（日）（10：00～12：00）の学習

内容「◎堆肥入れ◎畦草刈り◎荒起こし◎くろつけ準備◎大豆種蒔き」 場所「田んぼ」

堆肥入れ

昨年12月に落ち葉拾いをして約5ヶ月間発酵させてきた堆肥を田んぼに漉き込みます。堆肥としては十分に発酵していませんが、土の中で更に分解されて肥料となります。

1. 堆肥をリヤカーで2杯分田んぼに運んできます。
2. 堆肥を田んぼ一面にまんべんなく撒く。
3. 小枝などの硬いものは分解されにくいので取り除く。

畦草刈り

くろつけを行うために、畦の草を刈り取ります。

荒起こし

田んぼ全体を耕運機で荒く耕し、堆肥や刈り取ったレンゲを土に漉き込みます。

くろつけ準備

畦の整理（昨年くろつけで持った土を取り除いたり、崩れている部分を補修したりします）を行ない、畦にそって水路の水を引き込み、くろつけの準備をします。

今年も、畦に大豆を植えてみます。そのために南側と西側の畦の幅を広くします。

大豆種蒔き

畦に植える大豆の苗を皆さんにも育てていただきます。田んぼの土に腐葉土をまぜたものをポットに入れ、種を2つ蒔きます。



レンゲ刈りの様子

確認年度	野草名	和名	科	属	花期	分布	その他
02 03	△ アレチノギク	荒地地野菊	キク	ムカシヨモギ	5月 ~ 10月	南アメリカ原産	明治のなかごろに渡来
あ	○ イヌガラシ	大芥子	アブラナ	イヌガラシ	4月 ~ 9月	日本全土	
い	○ ウシハコベ	牛繁?	ナデシコ	ハコベ	4月 ~ 10月	日本全土	
○	○ オオイヌノフグリ	大犬の陰囊	ゴマノハグサ	クワガタソウ	3月 ~ 5月	ユーラシア・アフリカ原産	
お	○ オオバコ	大葉子	オオバコ	オオバコ	4月 ~ 9月	日本全土	
○	○ オニタビラコ	鬼田平子	キク	オニタビラコ	5月 ~ 10月	日本全土	鬼は大型の意味
○	○ オニノゲシ	鬼野薺粟	キク	ノゲシ	4月 ~ 10月	ヨーロッパ原産	
○	○ オランダミミナグサ	阿蘭陀耳葉草	ナデシコ	ミミナグサ	4月 ~ 5月	ヨーロッパ原産	葉をねずみの耳にたとえ
か	○ カタバミ	傍食	カタバミ	カタバミ	5月 ~ 7月	日本全土	シュウ酸を含むため酸味あり
○	○ カラスノエンドウ	鳥の豌豆	マメ	ソラマメ	3月 ~ 6月	北海道を除く	
○	○ カラスムギ	鳥麦	イネ	カラスムギ	5月 ~ 7月	ヨーロッパ・西アジア原産	食用にならずカラスが食べる麦の意味。
○	○ カワヂシャ	川 苳	ゴマノハグサ	クワガタソウ	5月 ~ 6月	北海道を除く	川べりにはえるチシャ(レタス)という意味で命名
○	○ カントウヨメナ	関東嫁菜	キク	ヨメナ	7月 ~ 10月	本州(関東地方以北)	ヨメナの仲間では別が難しい
き	○ キツネアザミ	狐薺	キク	キツネアザミ	5月 ~ 6月	北海道を除く	花がアザミに似る
○	△ キツネノボタン	狐の牡丹	キンボウゲ	キンボウゲ	4月 ~ 7月	日本全土	葉の形がボタンに似る
○	○ ギンギン	羊蹄(漢名)	ウマノスズクサ	ギンギン	6月 ~ 8月	日本全土	
○	○ キュウリグサ	胡瓜草	ムラサキ	キュウリグサ	3月 ~ 5月	日本全土	別名タビラコ。葉をもむとキュウリのおいがする
け	△ ケキツネノボタン	毛狐の牡丹	キンボウゲ	キンボウゲ	3月 ~ 7月	日本全土	
し	○ シロザ		アカザ	アカザ	9月 ~ 10月	ユーラシア原産	
す	○ スカシタゴボウ	透し田牛蒡	アブラナ	イヌガラシ	4月 ~ 10月	日本全土	イヌガラシと区別しにくい
○	○ スズメノカタビラ	雀の帷子	イネ	イチゴツナギ	3月 ~ 11月	日本全土	
○	○ スズメノテッポウ	雀の鉄砲	イネ	スズメノテッポウ	4月 ~ 6月	沖縄を除く	別名ビービーグサともいう
た	○ タチイヌノフグリ	立犬の陰囊	ゴマノハグサ	クワガタソウ	4月 ~ 6月	ユーラシア・アフリカ原産	
ち	○ チチコグサモドキ	父子草	キク	ハハコグサ	7月 ~ 9月	熱帯アメリカ原産	戦後急速に分布を広げる
と	○ トキワハゼ	常磐櫃	ゴマノハグサ	サギゴケ	4月 ~ 11月	日本全土	
な	○ ナズナ	薺	アブラナ	ナズナ	3月 ~ 6月	日本全土	別名ベンベングサ
の	○ ノゲシ	野芥子	キク	ノゲシ	4月 ~ 7月	日本全土	古代は食用に
○	○ ノビル	野蒜	ユリ	ネギ	5月 ~ 6月	日本全土	鱗茎や若葉は食用に
は	○ ハハコグサ	母子草	キク	ハハコグサ	4月 ~ 6月	日本全土	別名オギョウ(春の七草)
○	○ ハルジオン	春紫苑	キク	ムカシヨモギ	5月 ~ 7月	北アメリカ原産	大正時代に園芸植物として渡来
ひ	○ ヒメオドリコソウ	姫踊り子草	シソ	オドリコソウ	4月 ~ 5月	ヨーロッパ原産	
へ	○ ヘビイチゴ	蛇莓	バラ	ヘビイチゴ	4月 ~ 6月	日本全土	人間が食べず、ヘビが食べる意味
ほ	○ ホトケノザ	仏の座	シソ	オドリコソウ	3月 ~ 6月	北海道を除く	春の七草のホトケノザはキク科のコオニタビラコのこと
や	○ ヤエムグラ	八重葎	アカネ	ヤエムグラ	5月 ~ 6月	日本全土	表面にカギ状の毛があり衣服にくっつく
れ	○ ヤブジラミ	藪虱	セリ	ヤブジラミ	5月 ~ 7月	日本全土	
○	○ レンゲソウ	蓮華草	マメ	ゲンゲ	4月 ~ 6月	中国原産	蓮華草はゲンゲ(紫雲英)の別名

- 番外編
 ナノハナ
 ダイコン
 ナガミノヒナゲシ (ポピー)

田んぼに咲く野草の一部



ハハコグサ



ヘビイチゴ



ケキツネボタン



カタバミ?



みなさん、お元気ですか。

柏野小学校裏の田んぼはもう田植えになりました。例年より苗の成長が早いようです。この田んぼでは、田植機を使うため、田植えの時期は苗の生長によって左右されてしまいます。このおたよりが届く頃には田植えが終わっているでしょう。また、予想通り水が十分でないため田植えができない田んぼもあるようです。

柏野小学校裏の田んぼ、ホタル園コーポ前の田んぼ、柏野小学校横の田んぼ、そして私たちの田んぼには大きな違いがありますが、気がついた人はいますか。柏野小学校裏の田んぼは冬の間、田んぼに草がほとんど生えませんでした。ホタル園コーポ前の田んぼは少しだけ草が生えていました。柏野小学校横の田んぼと私たちの田んぼは草でいっぱいでした。草が生えないということは、そこには草の種がまったくといっていいほどないということを意味しています。それでも草の種は飛んできたり、動物が運んだりして芽を出し、成長して、やがて種を落としますが、その前に草を取ることで次の世代を作らなければ草のない畑になります。除草剤の助けがなければ、大変な仕事です。ただ、農薬の害がいわれるようになって、かつての除草剤と違ってきているようです。

右の写真は今の苗の様子です。

真ん中のあたり、ちょっと色が薄いように見えますが、わかりますか。外側に比べて少しだけ元気がありません。なぜでしょうね？

元気に育つ苗（6月1日）

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



6月6日（日）（10：00～15：00）の学習

内容「くろつけ」 場所「田んぼ」

服装 どろんこになってもいい服装にしてください。子供は着替えを持ってきてください。

足で泥をこねたりしますので、長靴ではできません。基本的には裸足、地下足袋、靴下でやります。

持ち物 タオル、昼食

くろつけ

－「くろ」とは畦（あぜ）のことです。「くろつけ」は畦から水が漏れないようにするための作業です。泥をこねて、畦に泥を塗りつけて、表面を滑らかにします。土だけではたくさんの小さな穴が空いているので、水が漏れてしまいます。土を泥状にすることで、土の粒の間のすきまがなくなり、水が漏れにくくなります。

1. 畦にそって引き込まれた水と田んぼの土をまぜて泥をこねる。泥は畦の天上部と内側に壁塗りをするように塗り付けるのにちょうどよい硬さにするのが早く仕上げるコツである。
2. くろつけは水の引き入れ口からみて一番奥の部分から仕上げていく。
3. くろつけが終わったら、畦が乾かないように水路をつけて水を引き込んでおく。
4. 田んぼの内部にも水が入るように水路をつける。
5. 水路に水がなくならないように引き入れ口を調節する。



苗床作り



かなりの大物です。



種蒔きの様子



みなさん、お元気ですか。

水不足で、くろつけが延期になりました。今週は上流の田植えもはじまると思われるので、ますますたいへんです。木曜日頃に大雨になれば、なんとか水が来るのではないかと思います。今週、来週まで待つてできないようでしたら、平日でも田植えをすることになります。今週はみなさんで「雨乞い」をしてください。当日も多少の雨であれば、くろつけ、代掻きを決行します。雨の時は、連絡網を流します。雨であれば、確実に水量が確保できるからです。代掻きと田植えのこの2日間は気合いを入れていきたいと思います。やむを得ず、翌週に延期ということもあります。翌週の予定も空けておいてください。

写真は昨年のものです。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



子供も大人もどろんこあそび？



子供も一緒にクロツケ



たいへんよくできました

6月12日（土）（10：00～12：00）の学習（6月6日延期分）

内容「くろつけ」 場所「田んぼ」

服装 どろんこになってもいい服装にしてください。子供は着替えを持ってきてください。

足で泥をこねたりしますので、長靴ではできません。基本的には裸足、地下足袋、靴下でやります。

持ち物 タオル、昼食

くろつけ

－「くろ」とは畦（あぜ）のことです。「くろつけ」は畦から水が漏れないようにするための作業です。泥をこねて、畦に泥を塗りつけて、表面を滑らかにします。土だけではたくさんの小さな穴が空いているので、水が漏れてしまいます。土を泥状にすることで、土の粒の間のすきまがなくなり、水が漏れにくくなります。

1. 畦にそって引き込まれた水と田んぼの土をまぜて泥をこねる。泥は畦の天上部と内側に壁塗

- りをするように塗り付けるのにちょうどよい硬さにするのが早く仕上げるコツである。
2. くろつけは水の引き入れ口からみて一番奥の部分から仕上げていく。
 3. くろつけが終わったら、畦が乾かないように水路をつけて水を引き込んでおく。
 4. 田んぼの内部にも水が入るように水路をつける。
 5. 水路に水がなくならないように引き入れ口を調節する。

6月12日（土）（13：00～15：00）の学習

内容「苗取り、しろかき（代掻き）」 **場所**「田んぼ」 **服装**「かなり汚れてもいい作業着」
足元「はだしか地下足袋、またはくつした」 **持ち物** 子供の着替え、タオル、昼食、水筒

苗取り

苗代から苗をとります。

1. 苗の結束用にすいたわらを水に浸けて柔らかくしておく。
2. 苗取りは、もち米（各自で蒔いた分は別にする）、うるち米の順に行う。くれぐれも混ざらないようにする。
3. 取った苗は、一握りずつわらで結わえて、トレイに入れる。
4. 苗の入ったトレイは水路で水に浸けておく。

しろかき（代掻き）

しろかきは、くろつけの終わった田んぼに水を入れ、耕運機で十分に耕し、平らにならす作業です。耕すときは多めに水を入れます。ならすときは水は少な目にします。そのほうが土の偏りがわかりやすいからです。

1. 田んぼ全体に水が回るように水路をつけます。
2. 耕運機の車輪を水田用に変えて、最初は荒く一度耕す。
3. 次に細かく耕す。
4. 水を止めて、表面の高低をならす。
5. 水を溢れない程度に引き込む。

6月13日（日）（10：00～13：00）の学習

内容「田植え」 **場所**「田んぼ」 **服装**「かなり汚れてもいい作業着」
足元「はだしか地下足袋、またはくつした」 **持ち物** 子供の着替え、タオル、昼食、水筒
（注意 午前と午後に分けて作業をします。）

田植え

お米の苗をしろかきの終わった田んぼに植え付けます。田んぼの南側から植え付けていきます。最初にもち米（全体の約半分）、次にうるち米を植え付けます。

1. 30cm間隔で目印のついた紐を用意して、東西方向に張る。（両端を人が持つ）
2. 苗を植える人は一握りの苗を持って、紐の北側に南を向いて適当な間隔で並びます。
3. 一度に植える苗は2本くらいで、大きな苗を植えるようにします。
4. 合図があったら、自分の持ち分に植え付ける。植え付ける場所は、紐の手前側に、目印のあるところ。
5. 自分の分が終わったら、一步下がって、これから植え付けるところを手でならす。
6. 全員が終わったら、紐を25cm北側に移動する。
7. 以上を繰り返していく。

「田んぼの学校」おたより

2003年7月6日 第9号

みなさん、お元気ですか。

今年も、しろかきに必要な水が確保できるか心配でしたが、絵堂（佐須街道より北側の地域）の田植えと重なるようだったので、しろかきを急遽6月12日（木）に繰り上げて行いました。その甲斐あって、日曜日の田植えはまったく問題なく終えることができました。これで一段落です。あとは、ひたすら天気にも恵まれることを祈るだけです。稲は、太陽の光と根からの栄養を吸収してどんどん大きくなり、分蘖（ぶんけつ、根元の茎の節から枝分かれすること）して葉の枚数も増えます。ぶんけつした分だけ穂の数が増え、収穫が増えます。できるだけ、子供と一緒に田んぼを訪れ、稲に声をかけて下さい。そして、よく観察して下さい。

自然が豊かなところはどこでもそうですが、そこに腰を落ち着けてじっくりと観察しているといろいろな生き物がいることに気がつきます。私たちの田んぼも生き物がいっぱいです。子供にとって、自然相手の遊びはすべてが興味の尽きないことばかりのはずです。大人の役目は遊びの中で見つけた面白いことが次の面白いことにつながるように少しだけ手を貸すことでしょうか。一言でかたり尽くせない自然のさまざまな出来事は、子供の好奇心をいやが上にも駆り立てることでしょう。つきない‘好奇心’が学びの原動力になります。

ハウネンエビとオタマジャクシの大発生

私たちの田んぼでは、1昨年、昨年とハウネンエビが観察されるようになりましたが、今年は、6月19日（木）朝、体長1cm位のハウネンエビが昨年よりもたくさん観察されました。昨年のハウネンエビが産んだ卵が孵ったのではないかと思います。同時にアマガエルと思われるオタマジャクシもたくさん泳いでいました。

いつも、アマガエルの卵が見つからないうちに



た。モグラだとしてもおぼれないのでしょうか？ また、2カ所の穴の内、1カ所は隣の畑に通じていて、水も流れていましたが、もう一つは、出口が見あたらないのに水がどんどん吸い込まれていきます。???



オタマジャクシが産まれるので不思議に思っていました。どうやら、他のカエルのような卵塊(卵の固まり)にならないで、ばらばらで稲の葉に付着しているようです。(それでも未発見)

モグラの穴？

田んぼの水が田んぼに空いた穴から大量に漏れていました。とりあえず、2カ所見つけて泥でふさぎましたが、翌日同じところからやはり漏れていました。今日（7/1）はたくさん泥を穴に入れてしっかりふさぎまし



今年もホウネンエビが大発生。

このおたよりでは、いろいろな疑問にもお答えしたいと考えています。どんなことでも、人に聞けないことでもかまいません。匿名でもかまいません。「田んぼになぜ水を入れるの？」みなさんわかりますか？素朴な疑問大歓迎です。みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

7月6日（日）（10：00～12：00）の学習

内容「一番草、畦草刈り、田んぼの生き物観察」 場所「田んぼ」

持ち物 拡大鏡(ルーペ)、色の白いトレイ（植木鉢の受け皿など）

目の細かい魚取り網（持っている人で結構です）

一番草

田植えが終わって、最初に行う草取りを「一番草」といいます。8月に行う「2番草」という言葉もありますが、「3番草」はありません。私たちの田んぼは、始めてからこれまで、ほとんど、草取りの必要がないほど草が生えません。そのかわり、稲の根元に手を入れて、根を切る作業をしていました。これは、丈夫な稲に育ててほしいと願う思いからきていることですが、そのままがいいという意見もあり、去年はやりませんでした。今年もやらないでみようと思います。

畦草刈り

くろつけの前に畦草刈りをしましたが、けっこう草が生えてきました。毎朝の見回りで少しは取っているせいか、昨年ほど草がありません。個人的(尾辻)なことですが、草刈りが本当に必要なことなのか疑念を抱いています。みなさんはどう思われますか。

田んぼの生き物観察

用水路の生き物観察会に続き、田んぼの中の生き物を観察します。田んぼに水を入れると、いろいろな生き物が出てきます。いったいどこから出てくるのでしょうか。観察会では、その不思議な自然のしくみを発見できるかも知れません。

最初は、田んぼの周りをよく観察しよう。鳥や、トンボが見られます。次に、畦から田んぼの水の中をよく見てみよう。じっと見ていると、いろいろと動いているものが見えてきます。まず、その動きを観察してください。

次は、それらを網ですくって、水槽に入れて観察してみよう。水槽では、横からも観察ができます。小さいものは、顕微鏡で見よう。(当日顕微鏡を用意する予定です)



みなさん、お元気ですか。昨年は、梅雨がなかなか明けず、結局冷夏になってしまいましたが、今年は一転して、冬からこの時期までまとまった雨が降りませんでした。いつもであれば、田んぼには、水がいっぱいあって、ミジンコや、ホウネンエビが泳ぎ、おたまじゃくしがアマガエルになり、シオカラトンボのヤゴが羽化したりと、生き物が大変にぎやかになるはずでした。上流から水を分けていただいたおかげで、田植えができましたが、これらの生き物達の水までは、残念ながら確保できませんでした。田んぼを見た方はご存知と思いますが、田植えの後、直に田んぼの水がなくなり、日を追ってひび割れが大きくなりました。(写真参照)ただ、私たちの田んぼは幸いに保水力があるためか、稲の生育は結構順調です。7月29日には、近藤さんが、最初の出穂を確認しています。台風のおかげで乾いていた田んぼも一息ついてます。油断はできませんが、何とか収穫にこぎつけたいところです。



7月4日の田んぼ (水が入っていません)



7月22日 あぜも田んぼも乾いてきました。

7月22日 土にはまだ水分がありますが、ひび割れの深さは30cm

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

臨時補習授業開催

「田んぼの学校」の7月の予定だった生き物観察は、中止となりましたが、現状の田んぼの様子を見て、学んでいただくことも大切なので、臨時に補習授業を開催することとなりました。都合のつく方はご参加ください。

日時 8月7日(土) 10時から12時

場所 田んぼ

その他 草取りもしますので、帽子や、飲み物も持参してください。

柏野夏祭り

「田んぼの学校」では、地域の方々との交流を積極的に行うため、毎年柏野小学校で行われる地域の夏祭り「柏野夏祭り」に模擬店「焼鳥屋」で参加しています。今年の日程は以下の通りです。

8月26日(木) 9:00から12:00 会場設営
8月27日(金) 17:00から21:00 夏祭り
8月28日(土) 17:00から21:00 夏祭り
8月29日(日) 9:00から12:00 片づけ

夏祭りへの参加はボランティアで、自由参加ですが、焼き鳥を焼く体験は大変楽しく、また貴重(他ではできない体験)です。是非参加してください。夏祭りの子ども向け模擬店もゲーム、綿飴、かき氷、花火(28日)など盛りだくさんで、**子どもになかなかの評判**です。参加の希望は、**8月15日までに**尾辻(TEL/FAX 0424-87-4385(留守録, FAXも可))まで以下の表の参加枠記号をご連絡ください。

参加の時間帯も自由です。特に、23日の8:30からは花火を見ながらささやかに打ち上げもします。詳しいことは、電話でお尋ねください。

参加枠記号	日付	時間帯	内容	備考
A	8月27日(木)	9:00~12:00	会場設営	
B	8月28日(金)	14:00~17:00	仕込み(焼き鳥を解凍します)	
C	8月28日(金)	17:00~19:00	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
D	8月28日(金)	19:00~21:00	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
E	8月29日(土)	14:00~17:00	仕込み(焼き鳥を解凍します)	
F	8月29日(土)	17:00~19:00	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
G	8月29日(土)	19:00~21:00	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
H	8月30日(日)	9:00~12:00	片づけ	

柏野夏祭り参加申し込み（FAX用）

参加者氏名

参加できる欄（いくつでも可）に○を記入してください。

参加枠記号	日付	時間帯	内容	参加（○）
A	8月27日(木)	9:00～12:00	会場設営	
B	8月28日(金)	14:00～17:00	仕込み(焼き鳥を解凍します)	
C	8月28日(金)	17:00～19:00	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
D	8月28日(金)	19:00～21:00	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
E	8月29日(土)	14:00～17:00	仕込み(焼き鳥を解凍します)	
F	8月29日(土)	17:00～19:00	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
G	8月29日(土)	19:00～21:00	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
H	8月30日(日)	9:00～12:00	片づけ	



みなさん、お元気ですか。柏野夏祭りも終わって2学期も始まりました。今年はすでにご承知の通り、冬季の小雨、空梅雨で極端な水不足です。それでも写真のように何とか穂を付けてくれました。日照は十分だったと思いますが、水不足が実りにどのくらいの影響が出るか全く予測が付きません。今年は、今年の冷夏と同様に10%以上の減収になるような気がします。

実りといえば秋ですが、やはり「すずめ対策」です。すずめもこの田んぼにはいいお米がなるのを知っているようで、年々訪れるすずめが増えてきているような気がします。「すずめ対策」の定番といえば、案山子（かかし）で



す。大いに工夫してすずめの恐がる案山子を作ってください。光ったり、音が出たりするものがあるといいかな？ ことしも創造性豊かな案山子を期待しています。みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

9月12日（日）（10：00～13：00）の学習

（年間日程から漏れていました。申し訳ありませんでした。）

内容「田んぼの観察、カカシ作り」 場所「田んぼ」

持参するもの 案山子の材料（垂木以外のもの）、大工道具

田んぼの観察

いよいよ秋らしくなってきました。田んぼの様子も少しずつ変わっています。秋の田んぼをじっくりと観察してみましょう。水がなかったためにあり得ないことが田んぼで起こっています。

カカシ（案山子）作り

芸術の秋とも言います。調布のすずめは少し賢いので、みなさんの創意工夫をおおいに期待しています。芸術性を追求するか、実用本位でいくか家族会議で検討してください。一家族で案山子一体作っていただきます。骨格となる部分の垂木は事務局で用意します。案山子に着せる服や、飾り付けなどの材料や大工道具は持参してください。



みなさん、お元気ですか。いよいよ稲刈りです。4月25日に種まきをしてから5ヶ月、6月13日に田植えをしてから2ヶ月半、記録的な小雨に見舞われた割にはうるち米、もち米ともおむね順調に育ったのではないかと思います。

調布産の、自分たちの新米を食べるのが今から楽しみです。うるち米は「キヌヒカリ」という品種です。有名なコシヒカリの遺伝子を受け継いでいる品種です。もち米はマンゲツモチという品種です。



今年の案山子です。

られたはんのき（榛の木）です。（カバノキ科の落葉高木。山野の湿地に自生。幹は直立し、15メートルに達する。）湿地に直立してくれるということは、はさの心棒にはもってこいですね。

稲刈りは、刈り取り用のカマを使います。毎年ケガをする人がいますので、カマの扱いには、十分気をつけてください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

刈り取った稲ははざかけをします。2週間くらいで稲は乾燥し、脱穀できるようになります。十分に乾燥していないと脱穀した粃が発酵してしまうことがあるようです。

はざかけ（はさかけともいう）の「はさ（稲架）」は刈り取った稲をかけて干すしくみのことです。日本全国にいろいろな形があります。田んぼの畦に木がある光景を見たことがありますか。あれは、はさかけのために植え



— 昨年の刈り取りの様子

10月2日(土)(10:00~12:00)の学習

10月3日(日)(10:00~12:00)の学習

内容「ハザ掛け準備、稲刈り」 場所「田んぼ」

服装 長袖、長ズボンの作業着、軍手

ハザ掛け準備

はざは、2段掛けのものを南北に2列田んぼ内に設置します。

1. 最初にはざの足場用の場所(3箇所)の稲刈りを最初に行います。
2. 足場用の垂木3本を1組にして荒縄で組んで3脚にしたものを、合計6組作ります。
3. 1列につき、3組の足場を並べます。
4. 10m前後の竹竿を3本くらい束ねて丈夫な1本の竿にして、足場の上に固定します。
5. 同じ様な竹竿をもう1本作り、最初の竿の60cm位下にぶら下げます。
6. 必要に応じて、竿を補強してください。

稲刈り

4日はうるち米、5日はもち米の刈り取りをします。

1. 稲株を左手で握り、右手の鎌で根元から刈ります。
2. 刈り取った稲は1握り分づつを根元をクロスさせて2握りを1組にしておいていきます。
3. クロスしておかれた稲の束を濡らした稲わら3, 4本で根元を結わえます。
4. 結わえられた稲束をクロスしたところで左右に振り分けてはさに掛けていきます。
5. はさかけの周りに鳥除けの網を張ります。



みなさん、お元気ですか。先日の稲刈り、ご苦労様でした。稲穂の重さの手応えはいかがでしたか。例年、この時期は秋晴れが続くのですが、今年は雨ばかりで、稲の乾燥が遅れていると思われま。予定を1週間ずらしての脱穀になります。通常ですと2、3週間も乾燥させると稲わらの水分もなくなりずいぶんと軽くなります。脱穀とは、稲から粃を分離させることです。大昔は千把扱き（せんばこき）というもので脱穀していました。鉄片を櫛の歯のように並べ、それへ稲穂をひっかけて、粃（もみ）をしごき落とします。約300年前の元禄年間（1688-1704）に考案されたようですが、いまでも農家の納屋にこれが残っていることがあり、昭和のはじめ頃までは使っていたのではないかと思います。

当会には、足踏み脱穀機（ミノル式）がありますが、これは、1910年（明治43年）の発明といわれています。千把扱きに比べ8倍の能力があるそうです。脱穀機で落とした粃と藁くずを分別する機械が唐箕（とおみ）です。唐箕の前は、風を利用して箕に入れた粃と藁くずを振って分別していました。脱穀している時は、ほこりがたくさん出ます。ぼうしとマスクを用意してください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



先日の稲刈りの様子



ハザに掛け終わった稲

10月31日（日）（10：00～12：00）の学習

内容「脱穀」、「藁梳き」 場所「田んぼ」

服装「作業着、ぼうし、マスク」

なお、当日が雨天の場合、翌週の11月6日（土）（10：00～12：00）に延期します。

脱穀（だっこく）

稲穂から粃を取ることを脱穀といいます。粃の状態は種と同じで、長期保存する場合は粃の状態で行います。次の年の種にするものは特に種粃といいます。

稲が日本に持ち込まれて、弥生時代となるわけですが、その頃の脱穀はおそらく手か石器でしごき取っていたと思われます。

1. うるち米の順に稲の束をはざからおろしてそのまま脱穀します。
2. 足踏み脱穀機の場合、わら屑と粃がいっしょに落ちるので、唐箕にかけてわら屑を分離します。

藁梳き（わらすき）

農家では、昔から、稲藁（いなわら）でわらじを作ったり、蓑（みの）を作ったり、縄をなったりしてきましたが、いまでは全くと言っていいほど行われていません。「田んぼの学校」では、援農として「米作り」のお手伝いをしていますが、稲藁を利用するための最初の作業である稲藁を梳く作業も行います。

1. 稲藁の束の穂先部分を持って、足踏み式脱穀機にかけます。
2. 脱穀機にかけることで稲藁の外皮を一枚取り除きます。
3. 天日干しをします。



みなさん、お元気ですか。脱穀がずれ込み、農作業がお天道様次第ということがあらためて感じられます。

みなさんは普段どんなお米を食べていますか？「えっ、白いお米以外にあるの？」というひとがいたら、このおたよりをよく読んでください。

粳摺りによって粳殻(外皮)がとれた米を「玄米」といいます。最近の健康食ブームで、この「玄米」を食べる人が増えてきました。これは、普通みなさんが食べている「白米」にくらべてビタミンB群、E、リノール酸、ミネラルなどの栄養価の高い成分が多く含まれていることや、便秘に効くということがあるためです。ただ、炊き方がややめんどろです。

「玄米」と「白米」の中間に「胚芽米(はいがまい)」というのがあります。以前から「白米」を10分として、ぬか部分の削り具合によって3分・5分・7分搗きというお米がありました。「胚芽米」は特に重要な「胚芽」(発芽する部分)を残すようにしたものを言うようです。「玄米」の表面には消化されにくい米ぬか層があり、「胚芽」を含めてこれを全部削り取ったものが「白米」になるわけです。「胚芽米」にもその削り加減で3分・5分・7分搗きなどがあります。「胚芽米」は米ぬかに含まれている前記の栄養があるうえ、「白米」と同じ様に炊くことが出来、消化吸收もいいということで、人気急上昇中？です。

「発芽胚芽米」というのを聞いたことがありますか。「胚芽米」を研いだ後、40度くらいのぬるま湯に2時間ほどつけると、胚芽部分が膨らみます。詳しいことはわかりませんが、ぬるま湯につけることで発芽が進むようです。この後、普通に炊くと出来上がります。「胚芽米」と「発芽胚芽米」のどちらがおいしいか、どちらがより栄養価が高いかはよくわかりません。

「調布の新米を食べる会」お知らせ

谷戸と田んぼの会主催

第7回「調布の新米を食べる会」を開きます。カニ山の紅葉を見ながら調布のお米と、野菜や蕎麦を使った深大鍋などを味わってみませんか？お釜でお米を炊く体験もできます。おかわり自由で、子どもはジュースやお茶、大人はお酒が一応のみ放題です。差し入れは大歓迎です。

食事の合間には、農家の方や図書館の方など昔の農業を知っている人からお話を伺いたいと企画しています。

- 日時：12月11日(土) 炊飯体験は10:00からカニ山キャンプ場
- 場所：深大寺自然広場
- 会費：中学生以上一人1000円、小学生以下500円です。
- 用意するもの：食器とお箸(お茶碗と汁椀、その他おかず用のとり皿)

● 参加申し込みと問い合わせ：

谷戸と田んぼの会

杉山 Tel/fax 0424-88-4863

近藤 Tel/fax 0424-88-0021

小雨決行します。参加お待ちしております。

以上

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



脱穀の様子

11月7日（日）（10：00～16：00）の学習

内容「籾摺り」 場所「田んぼ」

籾摺り

脱穀で稲わらから取った稲の実を籾といいます。籾は種の状態で、外皮に守られていますので、長期に保存が出来ます。籾から外皮(籾殻)を取り除いて「玄米」にする作業が籾摺りです。この言葉は文字どおり籾を擦りあわせることが語源になっています。籾殻は結構頑丈に出来ていて、つめを立てないと取れません。どうすればこの外皮をうまくとれるのでしょうか？みなさん、考えてみてください。

答えは田んぼで。

11月14日（日）（10：00～15：00）の学習

内容「精米」 場所「佐須共同精米小屋」

精米

籾摺りが終わった状態のお米が玄米と呼ばれます。玄米から胚芽米や白米にすることを「精米」といいます。もち米はぬかを全部取り、「白米」にします。うるち米は5分搗きを目標に精米します。精米所では、場所が狭いので見学だけの授業となります。時間内のどこかで見学するようにしてください。



みなさん、お元気ですか。14日に精米を行いました。もち米44Kg、うるち米54Kgでした。昨年は冷夏で収穫が少なかったのですが、今年はやはり水不足のせいでさらに収量が減りました。それでも、あの状況で、これだけの収量はなかなかだと思います。あらためて、有機肥料だけでやってきた田んぼの保水力に感心させられます。

さて、私たちの作ったうるち米は関東で比較的多く栽培されている「きぬひかり」という銘柄です。茨城県では奨励品種になっています。コシヒカリの血統を受け継ぎ、炊きあがりの絹のような色つや、そして食味も好評ということです。お米の味は、新米の精米直後がよりおいしく味わえます。

また、炊き方によっても味が変わってくるので、おいしく食べるには細心の注意を払ってください。おいしく炊くコツの一つはお米を研いだ後の「浸けおき」です。20度の水温の水で1時間つけると最適です。何かと忙しいおりですが、段取りを付けて、1時間浸けおきをやってみてください。

収穫祭のお知らせ

収穫祭は、作物の収穫を祝って行うお祭りです。毎年11月23日の勤労感謝の日に行ってきましたが、それなりに意味があります。この日は、「新嘗祭（にいなめさい）」が行われている日に当たります。「新嘗祭」は「しんじょうさい」ともいい、「新」は新穀を「嘗」はご馳走を意味します。毎年この日に全国の神社で行われ、新穀を得たことを神さまに感謝する新嘗祭は、五穀の豊穰を祈願した2月17日の祈年祭と対する関係にあるお祭りです。新嘗祭の起源は古く、『古事記』にも天照大御神が新嘗祭を行ったことが記されています。私たちの会では、収穫をもたらしてくれたすべてのものに感謝の気持ちを表すために収穫祭を行っています。出来るだけたくさんのお祝いしたいと思っておりますので、お友達などお誘い合わせの上、おいで頂きたいと思っております。お祝い事ですので、お酒やおつまみなどの持ち込みは大歓迎です。

つきたてのお餅を食べるときの具（おろし醤油、納豆、きな粉、あんこなど）をいろいろ用意しておりますが、これはぜひという具がありましたら、みなさんにご披露してください。楽しみにしております。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



粳摺りの様子

11月23日(火)(10:00~15:00)の学習

内容「収穫祭」 場所「田んぼ」

持ち物 お椀、はし、飲み物、お皿、包丁、まな板

会費 大人(中学生以上)300円、子供(小学生)100円(食材費に当てます)

酒代(お酒を飲む人)

その他 当日が雨の場合、28日(日)に順延します。

収穫祭

田んぼで取れたもち米(約20Kg)で餅つきを行います。最初の一臼は一年の感謝を込めて、お供えもちとして竹内さんに献上します。二臼目からはいろいろな具といっしょに皆さんで味わっていただきます。お餅の他には豚汁、焼き鳥、やきいもを用意する予定です。

参考までに餅つきの簡単な手順を説明します。

餅つきの手順

1. もち米の浸けおき

もち米は前日に研いで、水に浸けておきます。

2. 湯沸かし

蒸し器用の湯とは別にお湯をたくさん沸かします。洗い物や、臼、杵を温めておいたりするために使います。

3. もち米を蒸す

浸けおきしたもち米はざるで水を切った後、蒸し器に1升(1臼分)づつ入れて蒸します。お米の芯が残らないように十分に蒸します。

4. こねる

蒸しあがったもち米は手早く臼に入れ、米粒の形がなくなるまで、杵でこねてすりつぶします。これもできるだけ早くやります。

5. 搗く

十分にこねたら、搗き始めます。臼の中の餅は搗きやすいように相方が手で寄せます。搗き手と相方の呼吸が大事です。また、餅が熱いため、手に水を付けますが、つけすぎると水っぽくなるので、注意が必要です。

搗いた杵がもちから反発力を感じるようになれば搗き上がりです。

6. 粉にまぶす

搗きあがった餅はそのままでは何にでもくっつくので、のし台に米粉や片栗粉でまぶします。

以上

追伸

今年の取れ高は、うるち米54Kg、もち米44Kgでした。ご希望する方に1家族うるち2Kg、もち1Kgを1Kg500円で販売します。



収穫祭のおもちはおいしかったですね。皆さんいかがでしたか。いよいよ「田んぼの学校」最後の学習（来年2，3月に補習を予定）となりました。「田んぼの学校」では、調布の里山といわれる佐須地域の農家(竹内さん)のご協力により、お米作りのすべてを体験していただけるように約9ヶ月にわたる学習プログラムを作成しています。今回は、農業に一番大切な「土づくり」について学習します。「土づくり」のなかで一つの柱となるのが栄養分でしょう。肥えた土地、痩せた土地という時、栄養分が有るか無いかをさしています。これまで、11年間、無農薬、有機栽培を目標に、毎年田んぼに堆肥を入れてきました。堆肥の原料は、カニ山の落ち葉、農協で購入する鶏糞、取れたお米を精米した時に取れる米ぬかです。これまでは、田んぼに堆肥を作る場所を確保していましたが、昨年から竹内さんの堆肥置き場を使わせていただくことになりました。これまで毎年5月に完熟していない堆肥を田んぼにすき込んでいましたが、これからは専用の置き場で完熟した堆肥を作るようにします。落ち葉、鶏糞、米ぬかは、水分を補給して混ぜ合わせて寝かせます。発酵が順調に進むように適当に天地返し作業をします。来年以降はここで作った完熟堆肥に切り替える予定です。完全な有機栽培にはこのような「土づくり」が何より大切です。農業の基本は土づくりといってもいいくらいです。

収穫米の配布

田んぼで取れたお米は、みなさんに有料（1Kg 500円）で配布しています。今年度の参加者はうるち米1.5Kg、もち米1Kg、それ以外のかたはうるち米1Kg、もち米0.5Kgです。まだ、受け取っていない方は、12月5日に必ず受け取ってください。また、この日に受け取れない方は、尾辻まで連絡してください。余ったお米は希望者に販売します。

宿題

今回の学習には、宿題が2つあります。忘れずに持ってきてください。

ひとつめは、この9ヶ月間に田んぼで学んだことの感想文（長さは自由です。後日報告書としてまとめます。）です。おとうさんも、おかあさんも、こどもたちもみんな書いてください。（書けない子どもは、おとうさん、おかあさんが代筆してください。）卒業式に読み上げていただきます。

ふたつめは、調布の自然を守るために、自分にできることを一つ書いてきてください。難しいことよりも、簡単で、続けられることをお願いします。修了式欠席の場合も12月12日までに宿題は提出してください。

野川の未来を語り合う会（忘年会）

修了式のあと、今年一年を振り返っているいろいろ語り合う（飲む？）会を企画しました。メインディナーはお好み焼きです。参加を希望される方は、修了式の出席と一緒にFAXしてください。ホットプレートをお持ちの方は当日持参下さい。会費は大人1000円、小学生以上500円、お酒を飲む人+1000円となります。

4. 會計報告

2004年度収支決算

	科目	コード	金額	備考
収入の部	受講料	1110	253000	
	事業収入	1120	102100	柏野夏祭り模擬店収益等
	会費	1210	10000	
	寄付	1310	0	
	預かり金	1320	0	米代、保険料
	立替入金	1330	0	
			0	
前期繰越金	前期繰越金	2100	10661	
収入の部合計			375761	
支出の部	消耗品費	2110	75687	
	通信費	2120	25910	おたより郵送料
	材料費	2130	15192	種など
	交際費	2140	13890	
	会議費	2150	66242	
	教材費	2160	34420	
	講師料	2170	10000	
	保険料	2180	3105	スタッフ分
	燃料費	2190	8230	
	印刷費	2200	280	
	修理費	2210	4200	
	光熱水費	2220	20000	
	賃貸料	2230	1100	
	預かり金支出	2310	0	
	立替金	2320	0	
	手数料	2330	1210	
支出の部合計			279466	
収支差額			96295	

5. 参加者名簿

6. 参加者感想文集

7. 総括報告

「野川で遊ぶまちづくりの会」

代表 尾辻義和

「田んぼの学校」という形で再スタートした、「野川で遊ぶまちづくりの会」の「米つくり」も第4期を終えることになりました。今年度は新たな参加者11組に加えて、これまでに参加した親子で続けたいという18組を含めて総勢90名以上ということになりました。募集枠をはるかに超えることになりましたが、皆さんの熱意に応じて参加していただくことにしました。

田んぼの作業は毎年同じ作業の繰り返しですが、同じようにできる事は減多になく、目が離せません。今年度は、春から梅雨の時期も含めて雨が少なく、絵堂の相田さんをお願いして水を分けていただき、やっとのことで田植えが出来ました。8月に天候不順が続ки、日本中が不作という事態になりましたが、私たちの田んぼは例年より1割位の減収にとどまり、ほっとしているところです。

田んぼの生き物では、オタマジャクシの死んでいるのが今年も目立ちました。そのせいなのかわかりませんが、アマガエルは一昨年ほどたくさん発生しませんでした。また、ホウネンエビが昨年よりたくさん発生したようです。

今年度も、参加して頂いた方々には感想を書いて頂きましたが、「田んぼの学校」の趣旨がきちんと伝わっている事にたいへん嬉しく思っています。ほとんどの皆さんが継続して田んぼをやりたいと言っておられ、かといって、新しく応募される方にも加わっていただきたいとも思っているので、耕作面積は何とか増やしたいと今後も行政など関係する方々をお願いする次第です。多くの市民が集まって行うため、以下のような問題も放置できなくなりつつある状況にありますので、行政に少しでもご配慮いただければ幸いです。

- (1) 手洗いやトイレ（現在は、竹内さんの設備を使用させていただいている）
- (2) 休憩場所（竹内さんの敷地や道路を使用している。特に道路は子どもたちが遊んだりするため、通行する車に迷惑を掛けている）
- (3) 道具類の置き場所（現在は、竹内さんの納屋などを使用させていただいている）

他にもあいかわらずの水不足の問題や、スタッフ不足など問題はありますが、地域の方々の助けを借りたり、ちょうふ環境市民懇談会のサポートをいただくなど、少しずつ前進していきたいと考えております。皆様のご指導、ご協力をお願いして、総括とさせていただきます。

以上

8. 付録

●感想文

今年もとてもいろいろな新しいことを体験したり、発見したりできました。またさまざまな出会いがありました。私の思い出に残る名場面です。

堆肥を切り返していると中から驚くほどたくさん生き物たちが、うようよと沸いて出てきたこと。(虫に弱い人は気絶するくらい) 同じように、大きなカブトムシの幼虫がごろごろと出てくるシーン。

こうしてできた堆肥を田んぼに漉き込んで田おこししたこと。水をひき、畔にくろ付けしたあとからすぐに子供たちが足跡を付けてまわり、自分のうちの子どもが転んで上半身半分、泥にめり込んでしまったこと。代掻きしている泥田で、全身泥浴びしている子たち。

水量が少ない中、上の田んぼにお願いして水を引いたこと。あつという間に田植えが終わってしまい、ちょっとしか植えられなかったこと。

水路清掃とザリガニとり。そして生き物観察と水路の生き物救出劇。今年は数が少なかったのですが、初めての人はどう思ったのでしょうか？

夏の猛暑と水不足で、大きくひび割れた田んぼ。水撒きをする尾辻さん。水路の水溜まりに浮かぶドジョウ、干からびたカワニナ。とてもじっと見ていられない光景でした。

青くたくましく育つ稲からは一月半ほどで穂が出始めた。対照的に小さく先枯れしているとなりの田んぼ。この明暗はわずかな水量の差と、地面の保水力の違いによるものでしょうか？

野川の異常渇水宣言。水不足はピークを迎え、用水路にも柏野小学校から下には水が流れていません。本当に、もうだめかもしれないと思いました。用水の生き物たちと来年もあえるかどうか不安になりました。それでも穂には実が入り始め、粃を割ってみると青い小さな実ができていたのには驚きです。

隣の畑のご主人から「おかぼ」とひやかされるほど、ひび割れて硬くなった田んぼは、かえって草取りしやすいので、中まで入っていけます。地面はまったく乾燥しきってはならず、稲が作る日陰には意外にも湿り気が残っていました。こうした状態がずっと続き、やがて稲穂が垂れ、黄金色に色づき始めました。だいじょうぶかな、まだ心配です。

そして台風18号。稲は一本も倒れず、無事でした。もう水の心配は要らない時期ですが、それでも雨はありがたい恵みです。用水の本流に水が溢れ、ようやく野川の水位がもどり始めました。今年は秋に雨量が多かったせい、10月のカニ山はキノコの山でした。

そして稲刈り、はざかけ、脱穀、粃摺りと、子供たちが進んでお手伝いしてくれている姿は、例年になく生き生きとして見えました。また大人も子どもも余裕が出てきたように見えました。成長したのかな？極めつけは稲刈りと収穫祭の日、大人たちが子ども以上に火遊びを楽しんでいたことでした。

おしゃべりをする人、水路で遊ぶ子、畔を駆け回る子、火をおこす人、鍋を作る人、焼

き係、、みな思い思いに好きなことをしながら、それでいていっしょに楽しみながら作業している光景は毎年恒例になりました。

皆さんが作業に慣れたからかもしれませんが、けれども自分には、今年は今までと違って見えました。この「田んぼ」という限られた「場」にも、コミュニティーがあるのだなと感じました。こうした恵まれた環境を提供してくれた竹内さんに感謝するとともに、この周辺一帯を含めた環境が、子供たちにいつまでも残せたらよいなと改めて思いました。そして自分たちはそのために努力しているのだということを新たに実感しました。

●この環境を守り続けるために大切だと思うこと

- ・記録に残しておくことが大切。失われてしまうと二度と元に戻らない。
- ・続けること、育てることが大切。途絶えてしまうと再開する人や技術が失われてしまう。
- ・農業高校神代農場や野川公園など開発されず残されている環境が上流や下流につながっていることが大切。生き物や植物たちは環境が整えばいつか帰ってくる。
- ・フィールドと人とのつながり両方が大切。より多くの人に価値を知ってもらうことが大切。人だけでも場所だけでも成り立たない。農家の方、市民、行政がこの貴重な環境をなくさないようにする気持ちを持つことが大切。

とりあえず今回は、レポートと記録を残してみました。

●文献調査レポート

「佐須用水の水源地と水みち」についての考察

・問題

毎年の雨量が激減しているわけではないのに、湧水の数と水量はなぜ減少しているか。

・仮説

雨水が別のところに流れてしまう

- ① 舗装道路や住宅が増えたため、雨水が地面に染み込まずに、下水や河川に直接流れ込む。
- ② 地面に染み込んでも、浅い場所に止まらず、地下深くに浸透してしまう。
- ③ 今までとは違う水みちができて、バイパスしてしまう。

・検証方法

実地調査は今後の課題

・解決のために考えられること

- ① 浅井戸を掘り、浅い層を流れる地下水を引寄せる
- ② 雨水浸透マスを設置するときに、地下の地層を調査し効果的な場所に設置するとともに周辺の涵養林などとの相乗効果を図る
- ③ 適切に植林し直す。
- ④ マンションやビルなどを新築するときは周辺環境を調査し、影響を予測する。など

・地形と水みちについて

私たちの田んぼに水を運んでくれる佐須用水をさかのぼり、源流をたどっていくと農業高校の一番北西の湧水に行き当たります。これは三鷹通りを挟んで向かい合う青渭神社の大ケヤキのすぐ下です。道路が舗装される前はこのケヤキの根元から谷が始まっていたであろうとうかがえる地形です。道路を見ても、この辺りでは一番低くなっています。

ではどの辺りが分水嶺になっているのでしょうか、高低差だけで見れば、ここから西へ向けて次第に高くなり、神代植物園南門入り口の手前が一番高くなっています。これよりも以西に降った雨水は、浅い地層で深大寺のイヌシデ等の保護樹林に集められ、深沙堂裏などの湧水となって逆川の流れを作っていると考えられます。これよりも以東に降った雨は浅い地層に染み込みつつ重力に沿って下方に広がり、一つは不動堂の瀧（棕の木の根本からの湧水）、また一つは青渭神社のケヤキの下からの湧水（農業高校内）となっていると考えられます。

ここから谷戸地形が始まり、谷に沿って湧水がいくつか見られますが、多くは北東側の斜面下からのものです。これはその水源が農業高校の北東側にあることを意味しています。

つまり神代通りよりも西側の深大寺南町4、5丁目あたり、かつて絵堂と呼ばれた一帯であると考えられます。(別紙資料参照) この辺りは農家の屋敷林や、植木畑、畑などが多く残され、絵堂のかごの木、ヒイラギなどの市指定の天然記念物などがあります。また公園用地として空き地が点在しています。これらの裸地や林などで雨が地面に染み込み、水源を涵養しているとみられます。神代通りよりも東側になるとかつて野ヶ谷を流れていた深大寺用水に向けて傾斜があるため、おそらくはこの通りがほぼ境であろうと思われます。昭和20、30年以降に、用水の暗渠化、道路の舗装、宅地化、高速道路の開通などが行われました。当然このころから水量や湧水地点が減少していったと思われます。

さて高速道路より南側の、深大寺自然広場の湧水は、これも野草園内の東側の斜面にあります。休憩広場とその下からは大雨が降った後などに不定期に水が染み出します。これらの湧水の水源は、高速道路より南側のカニ山を含む深大寺南町2、3丁目と考えられます。ここにも畑と屋敷林が残されています。隣接して晃華学園や明大のグラウンドなどがありますが、緑は多くなく、雨水を涵養する効果はあまり期待できません。むしろ地下深くまで構造物があると、水みちがかわり、地中に浸透している恐れもあります。

水みちを大きく分断していると考えられるものに、先に挙げた高速道路があります。これによって涸れたり、涸れやすくなった井戸や湧水があったそうです。上下水道も据えかえれたとか。

こうして水みちが一度ふさがれると元に戻りにくくなります。また昨今のアパート、マンション等の建設で水みちが変わることもあります。大木を切り、林を開墾しても同じです。井戸を使わなくなっても変わるといいます。(別紙参照)

どのような開発や変化が起きているのかを実際に調べてみなくては分かりませんが、樹林や緑地が減ったことにより地面に降った雨が樹木に吸い上げられる量が減った。また井戸などで利用されることがなくなったため、浅い層の地下水が周辺から集められる量が減った。そのため湧水として地表に出ることなく地下や下水へと流れるようになったと考えられます。

一年間の動植物記録（2004年度版）

●冬に食べられる田んぼの草花

ゲンゲ（レンゲ）、ヨメナの若芽、ハハコグサ、ナズナ、（ウシ）ハコベ、ノビル、ギシギシ、イヌガラシ、タネツケバナ？（ホトケノザ）

佐須用水のセリ、オランダガラシ

●春の花

ゲンゲ、タンポポ、ハハコグサ、ヤハズエンドウ、ウシハコベ、ヘビイチゴ、オニノゲシ、ノゲシ、スズメノテッポウ、トキワハゼ、ナズナ、ヒメジオン、キツネアザミ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、イヌガラシ、カタバミ、コオニタビラコ、ヘビイチゴ

●夏の水草

ウキクサ、コナギ、アミミドロ

ただし今年には水草以外の雑草が繁殖

●水生生物（田んぼと用水）

シマイシビル

カイミジンコ、ケンミジンコ

ホウネンエビ、ミナミヌマエビ、アメリカザリガニ

モノアラガイ、サカマキガイ、カワニナ

ミズムシ、コカゲロウ属、フタスジモンカゲロウ、オニヤンマ、サナエトンボもしくはアカネトンボの仲間、シオカラトンボ（ともにヤゴ、成虫）オナシカワゲラ属、フタツメカワゲラ属、シマアメンボ、ホソバトビケラ、ユスリカ科、ハイイロゲンゴロウ

ホトケドジョウ、ドジョウ

アマガエル（オタマジャクシ、カエル）

●田んぼの周辺で見られる主な鳥

カラス（2種）

ヒヨドリ

ムクドリ

スズメ

シジュウカラ

オナガ

ツグミ

カルガモ（田植直後の水を張った水田によく来る）

セグロセキレイ

ドバト

キジバト

ツバメ（春から晩夏、代掻きしている水田の土を巣材に持っていく）

カワラヒロ

メジロ（冬によく見かける）

●カニ山の主なキノコ

・食べられるもの

マツオウジ（美味）、カワリハツ（好みによって美味）、キチチタケ（好みによって美味）、

ニオイコベニタケ（好みによって美味）、ハラタケ（美味）、

ホコリタケ（別名キツネノチャブクロ）、ノウタケ（どちらも幼菌のうちは美味）

ハタケシメジの一種（美味）、ウスキモリノカサ、ムラサキシメジ（不確実）

・食毒不明または食用としないもの

コシロオニタケ、ドクベニタケ、エリマキツチグリ、カワラタケの仲間、ハリガネオチバ

タケ、ホコリサルノコシカケ（薬用にされる）、キクラゲの仲間

その他同定できないものや小さなキノコが多数

・毒キノコ

テングタケ

発 行

2005年3月31日

野川で遊ぶまちづくりの会

代表 尾辻 義和

〒182-0033

調布市富士見町4-13-33

電話 0424-87-4385

Mail kp5y-ot.j@asahi-net.or.jp

URL <http://www.asahi-net.or.jp/~KP5Y-OTJ/>